



JAPAN FOUNDATION
国際交流基金



国際交流基金 令和5（2023）年度 年報

2024 年10 月発行

編著・発行／独立行政法人国際交流基金 広報部

〒160-0004 東京都新宿区四谷1-6-4

TEL 03-5369-6075 FAX 03-5369-6044

編集・制作／株式会社アイデア・インスティテュート

THE JAPAN FOUNDATION

2023-2024

国際交流基金 令和5（2023）年度 年報

日本の友人をふやし、 世界との **絆** をはぐくむ

国際交流基金は、「文化」と「言語」と「対話」を通じて日本と世界をつなぐ場をつくり、人々の間に共感や信頼、好意をはぐくんでいきます。

文化 Culture

文化芸術交流

海外の異なる文化や芸術に触れる感動は、言語の違いを越えて、相手への興味と共感を生み出します。日本の文化・芸術を幅広く世界に紹介し、人々の心の距離を近づけます。

言語 Language

海外における日本語教育

世界のより多くの人々に日本語を学ぶ機会を提供し、各国の日本語教育が自立的・継続的に発展していくための取り組みを行っています。多文化共生社会の実現といった、時代の要請に対応する取り組みの充実にも努めています。

対話 Dialogue

日本研究・国際対話

海外日本研究の振興支援や世界との対話に持続的に取り組むことにより、相互理解と信頼を深め、共通課題の解決に向けたグローバルな協働や人的ネットワークの形成を推進しています。

FIELDS

「文化芸術交流」、
「海外における日本語教育」、
「日本研究・国際対話」の
三つのフィールドで事業を
展開しています。

APPROACHES

文化の幅広い分野で
活動する人々をサポートし、
継続的な交流が可能となるような
機会の創出と環境づくりを
行います。

ORGANIZE

企画する・主催する

展覧会や舞台公演、国際会議、
海外の文化人の招へい等、文化交流が
行われるための機会を自ら創出しています。

SUPPORT

助成する・支援する

文化交流のために活動する人々に、
資金の一部を提供したり、
多くの人の活動を容易にするツール、
機会や場所を提供する等、
文化交流活動を側面から支えます。

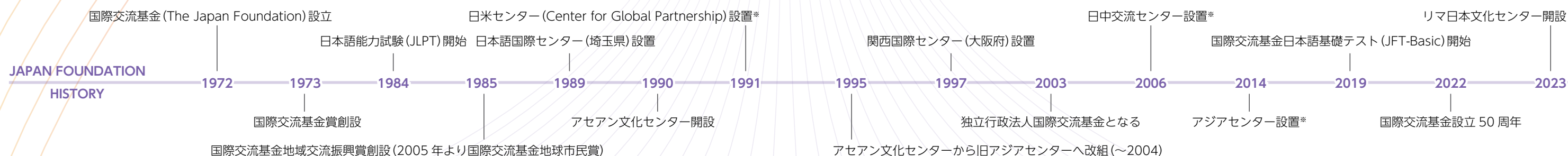
NETWORK / INFORMATION

ネットワークをつくる・ 交流の土台をつくる

文化交流活動を行う人にとって必要な情報や
素材を収集したり、人と人とのネットワークをつくる等、
国際文化交流の土台づくりとすそ野の拡大を継続的に
行っています。

独立行政法人国際交流基金（JF）は、世界の全地域において、総合的に国際文化交流事業を実施する日本で唯一の専門機関です。

「文化芸術交流」、「海外における日本語教育」、「日本研究・国際対話」の三つの分野を柱として、本部、京都支部、二つの附属機関（日本語国際センター及び関西国際センター）、さらに 26 の海外事務所（2024 年 3 月 31 日時点）をベースに活動しています。世界と日本の人々が、お互いの理解と絆を一層深められるよう、さまざまな交流をつくり出していきます。



*日中交流センター、日米センター、アジアセンターは 2022 年 4 月 1 日をもって、組織改編されました。

理事長からのごあいさつ



2023 年度は、コロナ禍以降、訪日インバウンドはじめ、国境を越えた人々の往来が急速に回復した 1 年でした。

国際交流基金（JF）は、2023 年度も、25 か国・26 か所に有する海外事務所などを通じて「文化（文化芸術交流）」「言語（日本語教育）」「対話（日本研究・国際対話）」の 3 つの分野で、広く世界で事業を展開しました。

「文化」の分野では、日本 ASEAN 友好協力 50 周年を記念し、民謡ユニット MIKAGE PROJECT によるコンサートをタイとマレーシアで、またシンガーソングライター・アニメソング歌手の伊東歌詞太郎氏による公演をフィリピンとベトナムで行う等、様々な記念行事や交流事業を実施し、ASEAN 各国で熱狂的に迎えられました。また、新海誠監督の最新作『すずめの戸締まり』のインド公開に合わせて、監督及びコミカライズ版の作者甘島伝記氏を現地にお招きしてプレミア上映を開催する等、世界各国で日本映画の上映会を開催し、ファンや映画関係者との交流の場を創出しました。

「言語」の分野においては、日本国内 47 都道府県、海外 91 の国・地域、269 都市で実施された「日本語能力試験（JLPT）」の応募者数が過去最高の約 148 万人を記録し、在留資格「特定技能 1 号」の取得に必要な日本語能力水準の測定にも活用されている「国際交流基金日本語基礎テスト（JFT-Basic）」の受験者数が 10 万人を突破しました。日本国内の外国人就労者増に関わるさまざまな動きも視野に入れつつ、海外日本語教育機関への支援や、教師・専門家を対象とする研修の実施、学習教材や e ラーニングコースの開発・

提供等の方策を効果的に組み合わせながら、日本語学習ニーズの高まりと多様化に応じています。

「対話」の分野では、村上春樹作品を切り口に、国内外の作家やアーティストが現代日本文学の国際化を議論するシンポジウム「世界とつながる日本文学 ～ after murakami ～」を早稲田大学と共催し、国内外の注目を集めました。また、日本 ASEAN 友好協力 50 周年記念事業として、日本と ASEAN の大学生が、共通する社会的課題の解決に向けたアクションを共に思索する「日 ASEAN ユース・フォーラム Take Actions for Social Change 2023」を実施して、フィールドトリップ等の協働体験を通じた若者間の信頼づくりや次世代のリーダー育成を図りました。

2024 年度には、2023 年 12 月の日本 ASEAN 友好協力 50 周年特別首脳会議で発表された、日本と ASEAN 間の包括的な人的交流事業「次世代共創パートナーシップー文化の WA2.0 ー」を本格的に開始します。JF が掲げるミッション「日本の友人をふやし、世界との絆をはぐくむ」を職員一同今一度心に刻みながら、今後とも国内外で積極的に活動してまいります。引き続き皆様のご理解・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2024 年 10 月
独立行政法人国際交流基金（JF）
理事長 黒澤 信也

THE JAPAN FOUNDATION 2023-2024

Contents

- 1 国際交流基金（JF）の概要
- 3 理事長からのごあいさつ
- 5 特集 日本 ASEAN 友好協力 50 周年

国際交流基金の事業

- 7 文化 [文化芸術交流]
- 10 言語 [海外における日本語教育]
- 15 対話 [日本研究・国際対話]
- 19 顕彰事業
- 21 2023 海外事務所の取り組み

資料編

事業実績

- 27 文化芸術交流
- 28 海外における日本語教育
- 29 日本研究・国際対話
- 30 世界の拠点紹介
- 31 民間からの資金協力
- 33 財務諸表
- 36 諮問委員会等／組織図
- 37 ウェブサイト・ソーシャルメディアのご案内

日本 ASEAN 友好協力 50 周年

2023 年、日本と ASEAN（東南アジア諸国連合）の友好協力関係が 50 周年を迎えました。この歴史的な節目を祝し、JF は双方の市民交流を奨励し、様々な記念行事や交流事業を実施しました。

MIKAGE PROJECT ASEAN TOUR 2023



日本 ASEAN 友好協力 50 周年記念事業として、民謡ユニット MIKAGE PROJECT によるコンサートと和楽器ワークショップをタイ（バンコク芸術文化センター等）とマレーシア（マラ工科大学シャーアラム校（UiTM）等）で実施しました。MIKAGE PROJECT は日本各地の民謡を現代的な感覚で作編曲し、民謡の魅力を国内外に伝えることを理念に掲げる 3 人組のユニットです。各国でのコンサートには、それぞれの国の著名なアーティストが参加するコラボレーションも行われ、音楽を通じた文化交流を行いました。



MIKAGE PROJECT の演奏風景

福岡県民謡「炭坑節」の歌詞からヒントを得てラブソングに仕立てるなど、ユニークな楽曲アレンジの手法に音楽専攻の学生からも熱い視線が寄せられました。

伊東歌詞太郎 ASEAN ツアー 2023 in the Philippines and Vietnam



ベトナム・ハノイ公演

ベトナム青年劇場で行われた公演は 2 公演とも満席。アンコールでは観客も一緒に日本語で歌うなど、ステージ上と客席が一体となる瞬間が繰り広げられました。

日本 ASEAN 友好協力 50 周年を記念し、シンガーソングライター / アニメソングシンガー伊東歌詞太郎氏による公演をフィリピン（マニラ）とベトナム（ハノイ）で行いました。“稀代の歌手”として知られ、若い世代の SNS ユーザーから絶大な支持を得ている伊東歌詞太郎氏が、日本と次なる 50 年の交流を担う若者たちへ歌を通じてエールを送りました。フィリピンでは、人気シンガーソングライターの Armi Millare 氏と共演し、音楽を通じた文化交流も行いました。



各地では公演に加え交流会も実施。フィリピンでは大学を訪問してフィリピン語を学んだり、音楽について話したりと、伊東歌詞太郎氏と学生がお互いに日本とフィリピンについて理解を深める時間となりました。

フィリピン（マニラ）
アテネオ大学での交流会

CHAI “NEO KAWAII NIGHT in Laos and Cambodia”

日本 ASEAN 友好協力 50 周年を記念し、女性 4 人組バンド CHAI による公演をラオス（ビエンチャン）とカンボジア（プノンペン）で実施しました。「NEO かわいい」をコンセプトに掲げる CHAI が、公演や現地の人々との交流を通じて CHAI ならではのパワーを届け、今後のさらなる両国と日本との交流を応援しました。



パンマイギャラリーでの交流会
（ラオス・ビエンチャン）

公演のほか、ラオスでは伝統文化である染色・織物工房を訪問。ギャラリーに勤務する女性達から染色、織物体験として作業方法を教わった後、その女性たちとの交流会を実施。ラオ語で CHAI は「心」という意味があることを知る場面もあり、メンバーにとってはラオスの文化に一步近づく体験になりました。



カンボジア・プノンペン公演

最近若者に人気を集めている文化施設「Factory Phnom Penh」で 2 回公演を実施。2 部連続で観覧する来場者が出るなど、盛況のうちに幕を閉じました。メンバーの YUUKI 氏が描いたイラストに、来場者が塗り絵をするという企画も行いました。

劇団 SCOT『ディオニュソス』公演（インドネシア・ジャカルタ）

日本 ASEAN 友好協力 50 周年及び日本インドネシア国交樹立 65 周年記念事業として、鈴木忠志氏が主宰する劇団 SCOT とインドネシア人俳優らによる『ディオニュソス』が、2023 年 10 月にインドネシアの首都ジャカルタにて上演されました。2 日間にわたる公演は両日満席となり、鈴木忠志氏を古くから知るインドネシアの演劇関係者らから、若い学生に至るまで幅広い層の方々が、日本とインドネシアの共同制作作品を鑑賞しました。

本作品は、2015 年から 3 年をかけて、JF アジアセンター事業の一環で、日本とインドネシアの国際共同制作事業として制作され、2018 年には SCOT サマー・シーズン（日本・利賀＜初演＞）とインドネシア・ジョグジャカルタ（プランバナン寺院群）で、2019 年にはシンガポール国際芸術祭と第 9 回シアター・オリムピックス（日本・利賀）で上演されてきました。2015 年以降、毎年利賀村で開催される鈴木忠志氏のサマー・キャンプにインドネシア人俳優が参加し、トレーニングを積んできました。今回はその中から選ばれた 3 名が、SCOT の俳優とともに出演しました。



ディオニュソス公演の様子
© Djajusman

日本 ASEAN 友好協力 50 周年記念国際シンポジウム in ジャカルタ 「日・ASEAN 間におけるモビリティーその未来をどう形づくるか」

日本 ASEAN 友好協力 50 周年を記念し、インドネシア国家研究イノベーション庁（BRIN）との共催により、2023 年 7 月に国際シンポジウム「日・ASEAN 間におけるモビリティーその未来をどう形づくるか」をインドネシアのジャカルタで開催しました。パンデミック後の社会が復興に向かうなか、「モビリティ」を基調テーマとして人の移動、学術、文化、多様性・共生等の観点から 5 つのパネルを設け、日本と ASEAN 間の社会文化的ネットワークとモビリティの重要性や、モビリティがもたらす諸課題と可能性について、各国の学者や有識者による多面的な議論が展開されました。



林芳正外務大臣（当時）によるビデオメッセージ

シンポジウム冒頭に寄せられた林芳正外務大臣（当時）のビデオメッセージでは、国際交流基金の「文化の WA（和・環・輪）」プロジェクトの実績に加え、ヒトやモノだけでなく知恵やアイデアの移動のさらなる活性化の重要性に言及され、日本と ASEAN 間の国際文化交流事業の重要性が改めて確認されました。



登壇者及び関係者の集合写真

日本及び東南アジア諸国から 21 名の登壇者を迎えて開催した本シンポジウムでは、登壇者同士はもとより、来場したインドネシアの研究者・専門家等と登壇者の交流が図られ、さらなる知的・学術的ネットワークの形成につながりました。



シンポジウムの会場風景

2 日間の開催期間中、来場者約 450 名に加え、オンライン配信及びアーカイブ配信のアクセス数が計 1700 件以上に達しました。また、各パネルの質疑応答においては、来場者及び他のパネルの登壇者から多くの質問が寄せられ、活発な質疑応答が展開されました。

日 ASEAN ユース・フォーラム “Take Actions for Social Change 2023”

公益財団法人かめのり財団および ASEAN 大学ネットワークと共同で、ASEAN 各国と日本の若者間の相互理解を深めるための交流事業「日 ASEAN ユース・フォーラム “Take Actions for Social Change 2023”」を 2023 年 7 月から約 4 か月間にわたって実施しました。「2050 年に向けて、より良い世界を共に創る」というビジョンの実現に向けて、各国から参加した学士課程の大学生 30 名は「高齢化社会」、「多様性」、「環境・防災教育」のテーマに分かれ、オンライン研修や ASEAN でのフィールドトリップ、訪日研修を通して、共に学び、協働しながら、チームで考えた課題解決のためのアクションプランを発表しました。



インドネシアでのフィールドトリップの様子

8 月下旬から 9 月上旬にかけて実施した ASEAN でのフィールドトリップでは、「高齢化社会」グループはタイへ、「多様性」グループはフィリピンへ、そして「環境・防災教育」グループはインドネシアへ約 1 週間の旅程で訪問し、各テーマに関連した団体や施設の活動を視察しました。インドネシアでは、学生たちはジャカルタとジョグジャカルタを訪れ、専門家や実践者と意見交換を行うとともに、火山噴火により被災した地域の人々と交流を持つなど、具体的な学びを深めました。



訪日研修中に訪問した広島での様子

2023 年 11 月 19 日（日）から 26 日（日）の日程で、プログラムに参加する学生全員が日本に集合し、3 つのテーマに関連した日本の関連施設や団体をそれぞれ視察しました。また、期間中には東京のほか、広島も訪問し、より良い世界を実現していくうえで大切な基盤となる「平和」についても、テーマの垣根を越えて、参加者全員で考える時間を持しました。



アクションプランの最終発表の様子

訪日研修の終盤となる 2023 年 11 月 24 日（金）に、学生たちは、チーム単位で考えたアクションプランを発表しました。研修中に視察した機関の関係者、ASEAN 各国の大使館関係者等多くの人が聴講する中、それぞれ工夫を凝らしたプレゼンテーションが行なわれ、コメンテーターや聴衆と学生との間で活発な質疑応答が交わされました。

文 Culture 化

文化芸術交流

海外の異なる文化や芸術に触れる感動は、
言語の違いを越えて、相手への興味と共感を生み出します。
日本の文化・芸術を幅広く世界に紹介し、
人々の心の距離を近づけます。



全米桜祭りオープニング公演
ワシントン・バレエ団（演出振付：金森穂）



第61回ボローニャ国際児童図書展 JF | JBBY ブース



海外巡回展「日本人形」インドネシア・デンパサール会場
Photo by Cush Cush Gallery



第18回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展日本館展示
撮影：原田祐馬



米国「小津安二郎生誕120周年記念特集」会場にて

日本の豊かな文化芸術を海外へ紹介

伝統芸能から現代アートまで多様な日本文化の魅力を、展覧会、舞台公演、翻訳出版、映画等さまざまな形で世界に向けて紹介しています。2023 年度は、コロナ下に始めたオンラインを活用した取り組みを継続してより広い層に日本の文化を届けつつ、日本のアーティストが海外に渡航して観客の熱気の中で行う対面の催し事業や、人と人が直接顔を合わせて対話する交流事業を、本格的に再開しました。

交流の基盤づくり — 専門家同士の対話の機会創出

国や言語、文化を越えて専門家同士が絆を深め、交流を重ねることが、共に新たな芸術を創り出していくためには不可欠です。2023 年度は、コロナ下ではやむなく中断していた文化芸術専門家交流事業を全面的に再開し、文化芸術諸分野において専門家同士の交流・対話事業を行いました。

美術分野では、2023 年 10 ～ 11 月に大洋州と欧州の美術館キュレーターを 5 名ずつ招へいし、日本各地での現代アートの現場視察、情報収集とネットワーキングの機会を提供しました。

舞台芸術分野では、2023 年 12 月の横浜国際舞台芸術ミーティング（YPAM）開催時期に合わせて、世界 5 か国から、影響力の大きいフェスティバルや劇場のディレクターら計 6 名が来日。日本の舞台作品を集中的に鑑賞し、自国で紹介する日本のアーティストを選んだり、自身の活動について発表したりしました。

また、文学・文芸分野でも、2024 年 2 ～ 3 月、中東欧 11 か国から 11 名の出版編集者グループの招へい事業を行いました。10 日間の滞日中、日本の文学や出版事情について最新情報や専門知識を得てもらうとともに、日本の出版社とのネットワーキングと協議・交渉の機会を作りました。成果は早くも形を見せ始め、参加者の帰国と同時に、それぞれの国で計 20 余件の日本文学翻訳出版企画が動き出しています。



中東欧出版編集者グループ招へい
早稲田大学国際文学館訪問

専門家交流の成果 — UAE「久門剛史：丁寧生きる」展



'Tsuyoshi Hisakado: Polite Existence' (2023), Jameel Arts Centre, Dubai.
Courtesy Art Jameel. Photography by Daniella Baptista.

外交関係樹立 50 年を記念し 2022 年に行ったアラブ首長国連邦（UAE）キュレーター招へいでまかれた種が、2023 年に展覧会として実を結びました。

2023 年 5 ～ 9 月に、中東初の現代アートセンターである UAE のアート・ジャミール・センターで開催された「久門剛史：丁寧生きる」展。前年にネットワークを構築した日本・UAE 両国の学芸員らが企画を練り、世界中の人々が集まる都市ドバイで、これまで中東で紹介される機会が少なかった日本の現代アートに焦点を当てた意欲的な試みです。

専門家同士の交流が生んだ成果は、「会場全体を効果的に満たした繊細な彫刻と音は、両国の文化交流の重要性を示した」、「ドバイで見た最高の展覧会の一つ。……作品の質と普遍的なメッセージに強く感銘を受けた」等、現地でも大きな評判と高い評価を得ました。両国美術関係者は、本展の成功を踏まえ、次なる協働に向けてさらに交流を深め続けています。

世界各地での日本映画上映

80 か国・地域において日本映画の上映会を開催し、約 24 万人の観客に日本映画を届けました。外交関係樹立 100 周年を迎えたトルコでは、オープニング事業として日本映画祭が開催され、震災からの復興を描いた作品『岬のマヨイガ』の川面真也監督が登壇されました。米国では小津安二郎監督生誕 120 周年記念特集を開催。メキシコでは女性監督の特集として田中絹代監督作品が上映され、日本研究者や映画史研究者を招いた鼎談も行われました。

また、2023 年に日本 ASEAN 友好協力 50 周年を迎えた ASEAN のうち、インドネシア、カンボジア、タイ、シンガポール、ベトナム、フィリピン、マレーシア、ラオスの 8 か国とオーストラリア、インドを加えた 10 か国で日本映画祭（JFF：Japanese Film Festival）を開催し、日本の文化や社会の多様性を伝えました。インドでは、新海誠監督の最新作『すずめの戸締まり』インド公開にあわせ、ファンに向けたプレミア上映会をムンバイで開催し、新海監督による舞台挨拶やサイン会、コミカライズ版の作者甘島伝記氏によるサイン会やワークショップ等、インドのファンとの交流の場を創出しました。



JFF 関連企画：映画『すずめの戸締まり』インドプレミア上映 舞台挨拶（新海誠監督）
 外交関係樹立100周年を迎えたトルコにて、『岬のマヨイガ』上映後の川面真也監督のQ&Aの様子
 チェコ・プラハにおける日本映画祭の会場
 インドネシア日本映画祭にて、観客の様子

ミニシアター特集配信企画「JFF+ INDEPENDENT CINEMA」

日本の地域社会と深く結びつきながら多様な日本映画の秀作を上映している地方都市の小規模な映画館（ミニシアター）に焦点を当てた特集配信事業「JFF+ INDEPENDENT CINEMA」を、2022 年 12 月から 2023 年 6 月、2023 年 8 月から同年 10 月の 2 回にわたって全世界向けに実施しました。

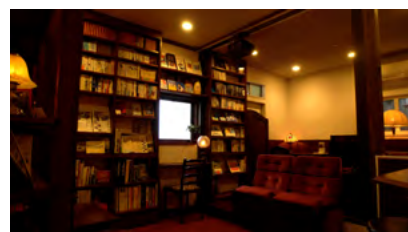
第 2 回においては、2023 年 8 月から 2024 年 3 月末までに特設サイトを訪問したユニークユーザー数は約 27 万人、ページビュー数は約 71 万回を記録し、132 か国・地域で視聴された配信映画の延べ視聴者数は約 6.2 万人、再生回数は約 9.3 万回に及びました。また、ミニシアター紹介映像の視聴回数は 1.5 万回を数えました。



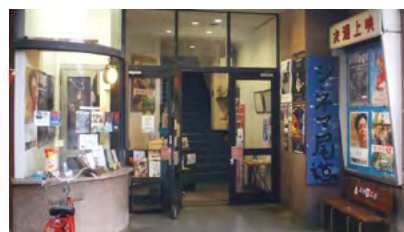
左上：『すずめの戸締まり』
 右上：『わたしの見ている世界が全て』
 左下：『左様なら今晩は』



上田映劇（長野県上田市）



シネコヤ（神奈川県藤沢市）



シネマ尾道（広島県尾道市）

言語

海外における日本語教育

世界のより多くの人々に日本語を学ぶ機会を提供し、
 各国の日本語教育が自立的・継続的に
 発展していくための取り組みを行っています。
 多文化共生社会の実現といった、
 時代の要請に対応する取り組みの充実にも努めています。



現地での日本語の授業をサポートする日本語パートナーズ



「日本につながる子どもの日本語教育関係者ミーティング」関係機関との意見交換会



寄贈教材を受け取ったウクライナの大学生

海外の日本語教育環境の整備

海外において質が高く安定した日本語教育が広く実施されるよう、各国・各地域の状況を踏まえつつ、現地の行政機関や主要な日本語教育機関と連携して主に次の事業を行い、各地の日本語教育環境の整備を進めました。

日本語専門家等の海外派遣



JF 海外事務所や海外の教育省、大学等の教育機関に日本語教育の専門家や指導助手、若手日本語教員を派遣し（38 か国 126 ポスト）、日本語講座の実施、現地日本語教師への研修、教材作成・日本語教授法等の助言、教師間ネットワーク形成支援、教育機関への巡回指導等を実施しました。アフターコロナで対面での教師研修やイベントも本格的に再開され、世界中の日本語教育の現場は活気を取り戻しています。

ラオス教育スポーツ省教育科学研究所に派遣された日本語専門家が、中等教育機関のラオス人教師を対象とした夏期集中研修を実施（ラオス）

日本語教育機関支援

JF にほんごネットワーク(さくらネットワーク)メンバーや世界各国の日本語教育機関が実施する、日本語講座運営、教材購入・制作、弁論大会、日本語教育セミナー、シンポジウム等の日本語普及活動に対して助成を行いました。

※「さくらネットワーク」メンバーは、各国の中核的日本語教育機関・団体。2023年度末現在101か国・地域355機関。



購入教材で学習した高校生が弁論大会で優勝し日本留学を果たす等、学習者の日本語能力の向上に寄与した（カンボジア）



電子版『いろいろい生活の日本語』を印刷・製本した教科書が新設の日本語クラス等で利用されている（ウズベキスタン）

海外の日本語教師に対する研修



教授法総合研修（夏期）



日本語専門家のミャンマー派遣再開後、ヤンゴン日本文化センターで初めて実施された「日本語教師育成プログラム第6期オンライン平日夜コース」

日本語国際センター及び各海外拠点において、海外での日本語教育を担う人材の育成とスキルアップを目的とした日本語教師研修を実施しました。日本語国際センターでは、世界中の国・地域の日本語教師を日本に招へいし、日本語・教授法・日本文化について学ぶ機会を提供しています。また、日本語学習プラットフォーム「みなと」を使い、日本語教師向けの教授法オンライン自習コースを新たに開始しました。

海外の学習者へ向けた学習機会の提供

各国の外交官・公務員や日本研究者等を招へいし、職務や研究に役立つ専門日本語の研修を行ったほか、日本語学習者等の訪日研修を実施しました。日本語能力の向上だけでなく、協力機関との交流や各種文化体験を通じ、参加者の総合的な日本理解を深めることを目的としています。



関西国際センター図書館で授業を受ける各国成績優秀者研修参加者



広島平和記念公園を訪問する外交官・公務員研修参加者

海外に在留する邦人の子等に対する日本語教育

日本語国際センターでは各国の継承日本語教育関係者を日本に招へいし、「日本につながる子どもの日本語教育関係者ミーティング」を実施しました。各国における継承日本語教育の現状や課題について情報共有を行い、今後必要な取り組みについて議論しました。また、同センターの佐藤郡衛所長は、シドニー日本文化センターの共催事業として開催された国際繫生語大会（ICNTJ）において特別講演を行い、パネルディスカッションに登壇しました。



国際繫生語大会（豪州シドニー）でのパネルディスカッション「ケイショウゴのこれからを考える」

リマ日本文化センター開所記念

リマ日本文化センターの開所と日ペルー外交関係樹立 150 周年を記念し、筑波大学とペルー日系人協会との共催で、日本語シンポジウム・教師研修会を開催しました。ペルーを含む南米スペイン語圏 8 か国から日本語教師 27 名を招き、南米地域における日本語教育のネットワーク構築の機会を提供しました。



日本語教師研修会閉会式での修了証授与

日本語パートナーズ派遣事業



現地での日本語の授業をサポートする日本語パートナーズ



日本の文化紹介を行う日本語パートナーズ

年齢も経歴も多様な人々が、生きた日本語を伝え、学びあう

日本語パートナーズ（NP）は、アジアで日本語を教える教師や生徒のパートナーとして、授業のアシスタントや日本文化の紹介を行います。2023 年度は、ASEAN8 か国と中国・台湾の中学・高校・大学等に 381 名を派遣し、2014 年の事業開始以来、派遣人数が延べ 3000 名を超えました。専門知識がなくても、アジアとの交流に熱意を持った方等がそれぞれの強みと経験を生かし、日本語ネイティブだからこその生きた日本語、リアルな日本を伝えていきます。また、教師や学習者、地域の人々への敬意をもって対等な立場で交流するとともに、パートナーズ自身も現地の言葉や文化を学び、現地の人々との絆を深めています。

参加者の声

タイ



NP タイ 11 期
ナワミントラチュ
ティット
クルンテープマハ
ナコーン学校
安達智子さん

派遣先での思い出は尽きませんが、特に日本文化体験で行った「巻き寿司作り」が印象に残っています。机上の学習に加えて五感に触れる日本文化の体験を取り入れることで、生徒の興味をさらに引き出し、日本語の学びにつなげることができると気づきました。NPを経験したことによって、異文化交流、日本語教育への関心がますます高まりました。

ベトナム



NP 派遣先校の先生
ハイバーチュン
高校
ヴォー ティ ミン
ゴック先生

NP 派遣事業は、日本語を学ぶ生徒や私たち日本語教師だけではなく、学校にとっても大変貴重な機会です。最初は恥ずかしがっていた生徒たちが、自発的に日本語を勉強して積極的に NP に話しかける姿を見ると、とても幸せな気持ちになります。今後は、生徒がベトナム文化を日本語で NP に紹介する活動もしてみたいと思っています。

マレーシア



NP 派遣先校の生徒
コタ・ティンギ
理科中等学校
ハナニさん

NP は優しくて、楽しいアイデアに溢れた人で、さまざまな活動を考えてくれました。NP から直接日本文化を学び、体験することができたおかげで、日本語をもっと勉強したいと思うようになりました。自信を持って日本人と会話ができるようになり、自分の言いたいことを伝えられるようになることが、私の目標です。

海外における日本語教授法及び 日本語学習者の能力評価の充実

日本語普及のため、新たな教授法や学習素材の提供、日本語学習者のための日本語能力試験（JLPT）及び外国人材受入れのための国際交流基金日本語基礎テスト（JFT-Basic）の実施、日本語教育に関する調査等の事業を行いました。

日本語教授法に関する情報発信と学習素材の提供

「JF 日本語教育スタンダード」は、ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）の考え方に基づいて JF が開発した、日本語の学び方、教え方、評価の仕方を考えるための枠組みです。その準拠教材である『まるごと 日本のことばと文化』では中国で新たなレベルの出版と「まるごととサイト」で提供するサポート教材等の多言語化を行いました。同じく準拠教材の『いろどり 生活の日本語』とウェブサイト「ひきだすにほんご コンテンツライブラリー」については多言語化及びコンテンツ拡充等を進めました。



『まるごと 日本のことばと文化』中国版 中級1・中級2



『いろどり 生活の日本語』入門・初級1・初級2



JF サイト内「日本語教育通信」で日本語教育に関するさまざまな情報を提供



今年度は JF 開発の日本語教育教材についての論文と多様な実践報告を掲載

「日本語教育通信」は国内外の日本語教師を主な対象として日本語教育に関するニュースや授業アイデア等を発信しています。2023 年度は 15 件の記事を公開しました。

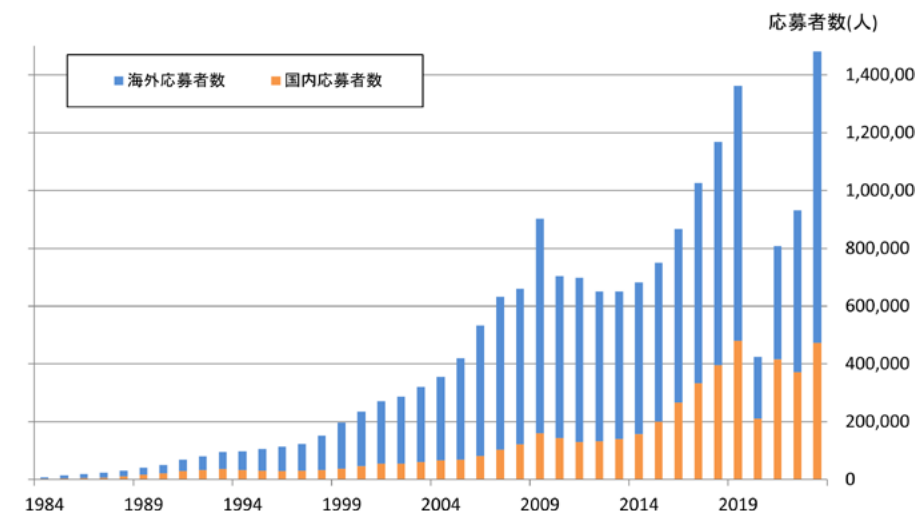
『国際交流基金日本語教育論集』は、JF の日本語教育事業に携わる国内外の専門家等が執筆した教育実践・教材開発等に関する論文や報告を掲載しています。2023 年度は電子ジャーナルとして 20 号を発行し、論文を 2 本、報告を 6 本紹介しました。

日本語能力評価のための試験の実施

日本語能力試験（JLPT）は、日本語を母語としない日本語学習者を対象として 1984 年から実施されている世界最大規模の試験です。新型コロナウイルス感染症による制限が緩和された 2023 年においては、国内外合わせて過去最高の約 148 万人の応募があり、海外応募者数については初めて 100 万人を突破しました。

7 月試験では、海外 54 か国 168 都市で約 48 万 4000 人が応募、約 40 万 5000 人が受験しました。

12 月試験では、チレボン（インドネシア）、ダルハン（モンゴル）、サンタフェ（アルゼンチン）で新規に実施し、海外 84 か国 247 都市で約 52 万 5000 人が応募、約 42 万 7000 人が受験しました。



日本語能力試験（JLPT）応募者数の推移（1984年～2023年）



2023年度より新規に実施されたチレボン（インドネシア）での日本語能力試験（JLPT）

国際交流基金日本語基礎テスト（JFT-Basic）は、主に就労のために来日する外国人が遭遇する、生活場面でのコミュニケーションに必要な日本語能力の測定を目的としたコンピューターテストで、2019 年に開始しました。2023 年度は、デンパサール（インドネシア）、ベンガルール（インド）に新規会場を設置、アジアを中心とする 11 か国 21 都市及び日本国内で約 10 万 3000 人（前年度約 4 万 7000 人）が受験しました。



機関を訪問し「いろどり」の使い方を説明する生活日本語コーディネーター

外国人材受入れのための日本語教育事業

日本での生活・就労を目指す人々の日本語能力習得を支援する取り組みをアジア中心に 15 か国で実施しました。ウェブ教材『いろどり 生活の日本語』は新たに 1 言語を加え計 17 言語となり、年間約 438 万件のアクセスがありました。また、同教材をもとに開発した「いろどり日本語オンラインコース」は、入門（A1）コースの 8 言語版を新たに公開しました。各国では、日本語専門家と生活日本語コーディネーターが『いろどり』の紹介や『いろどり』教授法セミナー等を行いました。

アインシャムス大学関係者招へい

エジプトでカイロ大学に並ぶ有力な日本語学科を有するアインシャムス大学の言語学部長兼日本語学科長と日本語学科専任講師の 2 名を 10 日間日本に招へいし、JF 本部や各地の大学等の訪問を通して学科及び大学院運営強化のためのネットワーキングの機会を提供するとともに、初来日となった言語学部長の対日理解の深化を図りました。



筑波大学を訪問

ウクライナ日本語教育機関支援

戦時下においても日本語教育を継続しているウクライナの 8 機関に対し、日本語の図書教材や文化備品を寄贈しました。日本語能力試験も再開した他、オンライン上では、学習・交流プラットフォームの開発、日本語専門家による日本語講座や教師研修を実施し、「日本語を勉強している間は戦争を忘れられる」といった感謝の声が寄せられました。



キーウ国立大学の日本語教室の様子

e ラーニングの開発・運営

日本語学習プラットフォーム「JF にほんご e ラーニング みなと」の年間受講者数は 189 か国・地域の約 15 万 8000 人に上り、累計登録者数は 203 か国・地域の約 43 万人を記録しました。オンラインコースを用いた自学自習が海外における日本語学習手段として定着しつつある状況を踏まえ、360 度動画・静止画を活用し日本の家のバーチャル訪問体験ができる「ホームビジットコース」の開講等を通じ、多様化する学習ニーズに応えました。



360度動画・静止画を活用した「ホームビジットA1自習コース」



対 Dialogue 話

日本研究・国際対話

海外日本研究の振興支援や世界との対話に持続的に
取り組むことにより、相互理解と信頼を深め、
共通課題の解決に向けたグローバルな協働や
人的ネットワークの形成を推進しています。



国際交流基金主催の国際シンポジウム
「世界とつながる日本文学 ～after murakami～」
2023年10月に早稲田大学で開催。写真の登壇作家は右から柴崎友香氏、呉明益氏、アンナ・ツィマ氏、ブライアン・ワシントン氏、チョン・イヒョン氏。一番左はモデレータの柴田元幸氏（東京大学名誉教授）。

海外の日本研究

海外における日本理解促進のため、各国・地域の日本研究振興を支援するとともに、国内外の研究者及び研究機関のネットワーク形成・強化を図る事業を実施しています。

日本研究者の支援

海外において日本に関わる研究を行う学者・研究者を招へいする「日本研究フェロースhip」では、2023年度は新たに82名に対して訪日研究の機会を提供し、前年度から継続する40名と合わせて計122名のフェローが日本での研究活動を行うとともに、フェロー・カンファレンスや発表・交流会など、新たなネットワーク形成に向けた事業も展開されました。



東京大学にて開催した「JF-GJSイニシアチブ『日本研究フェロー・カンファレンス2023』」に集う訪日研究活動中のフェロー

日本研究機関への支援

各国・各地域の日本研究機関に対する支援を通じ、海外での日本研究の長期的な発展・拡大を図っています。



現代日本理解特別プログラムによる欧州大学院大学への支援
イタリアにある欧州大学院大学に対し、日本の外交・安全保障政策を論じる講座の開設・運営を継続支援。



ヨーロッパ日本研究協会 第17回大会
対面とオンラインのハイブリット形式にて実施された2023年の大会では、対面会場の Gent University (ベルギー) に800名を超える参加者が集っただけでなく、ヨーロッパ日本研究協会と東アジア日本研究協議会とのコラボレーション・パネル開催という地域をまたいだ取り組みも実現。

日本研究ネットワークの強化に向けた支援

日本研究に関わる研究者や知日層及び関連機関を横断的に結び付け、ネットワーク化を図ることにより、海外における日本研究の発展と進化に寄与することを目指しています。



第5回次世代日本研究者協働研究ワークショップ
若手の日本研究者が国際的・学際的な研究者として活躍できることを目指し、2018年度から開催。2023年度は、対象地域をアジア以外にも広げ、トルコ、エジプト、ブラジルからも参加者を迎えて実施。10日間の日本招へいに参加した大学院生は、講師陣による講義を通じ多国間の協働研究の可能性と実践のヒントを得るとともに、グループワークにより協働研究の実践に取り組み、最終日には対面での国際学会を想定して模擬パネル発表を行いました。



日本研究基盤整備プログラムによるインドでの客員教授派遣事業
コロナ禍を経て4年ぶりに再開した客員教授派遣事業では、ビシュバパティ大学などの派遣先各大学にて日本の教授から学生への直接的な指導が行われただけでなく、ジャワハルラル・ネルー大学やデリー大学などへの巡回出講も実現。インド国内で新しく日本研究を始めた機関等においては、新たなネットワーク構築の機会となりました。

国際対話・ネットワーク形成の推進

国際シンポジウム・セミナー・ワークショップ等を通じ、グローバルな共通課題についての対話と人的ネットワークの構築に取り組むとともに、新たな価値の創造・共有を目指した先駆的な対話事業にも取り組んでいます。また、将来の交流の礎となる市民・青少年の交流事業や人材育成事業を実施しています。

インド太平洋パートナーシップ・プログラム（JFIPP） リサーチ・フェローシップ／ネットワーク・フェローシップ



気候変動グループ研修

インド太平洋地域におけるパートナーシップと人的ネットワークの構築を目的として、次世代の専門家に知的協力の機会を提供する新たなフェローシップ・プログラムを開始。このうち、リサーチ・フェローシップでは日米豪印から計 16 名の研究者・実務家個人を対象に、地域の共通政策課題に関する研究・調査プロジェクトを支援。ネットワーク・フェローシップでは「気候変動」と「防災」のテーマで、それぞれ米国の東西センター、オーストラリア国際問題研究所と協力し、次世代専門家計 31 名を対象に、インド太平洋の各地でグループ研修プログラムを実施しました。



気候変動グループ研修



防災グループ研修



日米次世代パブリック・インテレクチュアル・ ネットワーク事業

米国のモーリーン＆マイク・マンスフィールド財団と共同で、日米の政策・世論形成への関与が期待される中堅・若手世代の専門家を対象に、両国のアジェンダ理解やネットワーク形成を目的としたさまざまな研修プログラムを実施しています。2023 年 6 月には第 6 期生を対象に東京及び山口、福岡（北九州）で研修を行ったほか、8 月には米国モンタナ州で研究報告等を目的とした合宿を行いました。



訪日研修

「心連心：中国高校生長期招へい事業」第 15 期

日中の若者の交流促進と将来につながる信頼関係構築のため、中国の高校生に、約 10 か月にわたり日本の高校生活を体験する機会を提供しています。2023 年度はコロナ禍による休止を経て、約 4 年ぶりに第 15 期生 9 名が来日し、これまでの招へい者数は総計 451 名となりました。



北海道から鹿児島まで、全国各地の高校で留学生を送る第15期生

ウクライナ詩人 オスタップ・スリヴィンスキー氏 招へい事業

ロシアによるウクライナ侵攻により国内外に避難を余儀なくされた市民の証言を聞き取り、『戦争語彙集』として編纂した詩人のオスタップ・スリヴィンスキー氏を日本に招へいしました。同書を日本語に翻訳した日本文学研究者ロバート・キャンベル氏とともに、作家の桐野夏生氏や平野啓一郎氏、哲学者の鷲田清一氏ら日本の文化人や有識者との座談会など各種イベントを開催し、戦時下で変容していく言葉の意味について話し合いました。



座談会「痛みはどんなにおいがするか、って？～ウクライナの戦争証言集から言葉の『現在』を問う～」



『そうやって、私たちは生き永らえたのです～ウクライナの避難者の声から言葉の『今』を考える国際フォーラム』（国際交流基金・早稲田大学共催）

日米草の根交流コーディネーター派遣（JOI）プログラム

米国の非営利団体ローラシアン協会と共催で、米国の草の根レベルで日本への関心と理解を深めることを目的に、地域に根差した交流を深めるためのコーディネーターを米国の南部・中西部・山岳部地域に派遣しています。2023 年度は新規に 8 人のコーディネーターを派遣（第 21 期）したほか、継続派遣中の 17 人と合わせ、25 人が地域の学校や文化施設などで日本文化を紹介する幅広い活動を行いました。



風呂敷を紹介する20期コーディネーター



日本の絵本を読み聞かせする21期コーディネーター

有識者による国際対話

探検家の角幡雄介氏とベストセラー作家のオリバー・バークマン氏による、効率性至上主義の現代社会に疑問を投げかける対談（「朝日地球会議 2023」特別共催セッション）や、食育について日本とドイツの専門家が論議するシンポジウム（ベルリン日独センター共催「日独対話から考える食の未来 2 一食育とコミュニケーション」）を開催。日本と各国の有識者との国際対話・ネットワーク形成に取り組みました。



「朝日地球会議2023」特別共催セッション「『限りある時間』と冒険 不確実性を生きる」



ベルリン日独センター共催シンポジウムの様子

国際交流基金賞

学術、芸術その他の文化活動を通じて、国際相互理解の増進や国際友好親善の促進に特に顕著な貢献があり、引き続き活躍が期待される個人・団体へ国際交流基金賞を授与しています。50回目となる2023年度は、78件の中から、3件の受賞者を決定しました。授賞式後に開催された国際交流基金賞50周年記念レセプションには秋篠宮皇嗣同妃両殿下のご臨席を賜りました。

2023年度国際交流基金賞の受賞者・団体及び授賞理由

宮城 聡（演出家／SPAC-静岡県舞台芸術センター芸術総監督・静岡県コンベンションアーツセンター館長）【日本】

1990年に「ク・ナウカ」を旗揚げし、「語る」俳優と「動く」俳優が二人一役で演じる独自の演出手法で注目を集め、2007年にはSPAC-静岡県舞台芸術センター芸術総監督に就任し、自作の上演と並行して世界各地から現代社会を鋭く切り取った作品を招き、「世界を見る窓」としての劇場づくりに尽力している。2014年のアヴィニョン演劇祭での『マハーバーラタ』、2017年同演劇祭での『アンティゴネ』で、日本人の死生観を反映した同時代的テキスト解釈とアジア演劇の身体技法や様式美を融合させた演出が国際的に高い評価を受け、上演や演出の依頼が絶えない世界的な演出家となる。こうした活動が国際相互理解の促進に貢献している。



© Ryota Atarashi

小川 洋子（小説家）【日本】

1988年のデビュー以来、数多くの長編・短編小説を生み出し、『博士の愛した数式』『密やかな結晶』をはじめとする作品世界は、多忙な現代社会からは距離を置いた一見穏やかな空間であるが、登場する人物たちは、失われゆく記憶や命と向き合い、それらを慈しみつつ、普遍の物語を生きている。端正な日本語で書かれた作品は、2023年半ばまでに36作品が、合わせて37言語に翻訳され、世界各地で読者の共感を得てきた。近年は国際的な文学賞へのノミネートも相次ぎ、世界各地の読者だけでなく、日本語作家、さらには日本語教育に携わる人々を牽引する存在となり、文学や日本語を通じた国際相互理解の促進に大きく貢献している。



© 講談社

ペルー日系人協会（APJ）【ペルー】

10万人超のペルー日系人コミュニティを支え、日本文化の普及に努めてきたペルー日系人協会は、日秘文化会館を中心に日本語教育を促進し、今では南米における日本語教育のハブ的存在となり、日本の古典文学の翻訳出版や、中南米各国の日系人対話を企画するなど、日本研究、国際対話分野でも中心的存在となっている。また医療分野でも広く評価を得るなど活動の幅を広げている。日ペルー外交関係樹立から150周年、移住開始から124年を迎えた記念の年に、多分野で日本とペルーの国際文化交流に大きく貢献してきたことを評価した。



© APJ

地球市民賞

日本と海外の市民同士の結びつきや連携を深め、互いの知恵やアイデア、情報を交換し、ともに考える先進的で独自性のある活動に取り組む日本国内の団体を顕彰しています。39回目となる2023年度は3団体が選出されました。授賞式及びレセプションには高円宮妃殿下のご臨席を賜りました。

2023年度地球市民賞の受賞団体及び授賞理由

特定非営利活動法人 WELgee

WELgeeは、来日する難民のキャリアや人生の目標に基づく教育プログラムを提供し、雇用企業とのマッチングや就労後の伴走支援を通じて、誰もが未来を描ける日本をめざす活動を行っている。就職支援に留まらず、難民のキャリアアップと国際理解の促進にも新たな挑戦を行うそのアプローチは、難民支援のみならず、在留外国人支援や国際理解活動においても示唆に富むものである。



社会福祉法人 国際視覚障害者援護協会（IAVI）

国際視覚障害者援護協会（IAVI）は、アジアをはじめとする発展途上国から視覚障がいのある若者たちを日本に招き、盲学校への留学支援を通じて、あん摩マッサージや鍼灸の職能を身に付ける手助けとなる活動を行っている。自立や社会参加が困難な国々の視覚障がい者に対して未来を切り拓くきっかけを提供するとともに、発展途上国の障がい者理解の増進にも貢献している。



特定非営利活動法人 ABCジャパン

ABCジャパンは、日系ブラジル人当事者によって設立され、神奈川県鶴見区を中心に、教育・進学・就労等、外国人住人の人生に寄り添った支援を行っている。各種事業で学校や行政と連携し、在住外国人自らが地域の中で積極的に活動する同団体の取り組みは、「日本人が外国人を支援する」という従来の関係性を超えるものであり、今後他地域のモデルとなることが期待される。



2023 海外事務所の取り組み



JF は、25 か国に 26 の海外事務所
(2024 年 3 月 31 日現在) を設け、
地域・国別事業方針のもと、
各国・地域の状況に合わせ、
「文化芸術交流」、「日本語教育」、
「日本研究・国際対話」の各分野で
さまざまな活動を展開しています。
各事務所による活動報告をご紹介します。

1 イタリア



松田青子氏トークイベント「おばあちゃんたちの粘り強さ」

イタリアに日本の近代文学を広めることを目的に創設された伊日財団の「第2回日伊ことばの架け橋賞」の第2回受賞作家・松田青子氏と翻訳家・ジャンルーカ・コーチ氏（トリノ大学）によるトークイベントを、同財団との共催で実施しました。イベントには、特別ゲストとして、現代イタリアを代表する作家であり日本ともゆかりの深いダーチャ・マラーニ氏を迎えました。250名の来場者を得た会場からは時折拍手が湧き、女性作家同士の対談企画を評価する声が寄せられました。



2 ドイツ



ケルン・京都姉妹都市提携 60 周年記念事業

2023 年はケルン市と京都市の姉妹都市提携 60 周年にあたり、在デュッセルドルフ総領事館と共に実施した「第5回京都デー」や、両市にゆかりのある日独現代アーティストのグループ展「boder/less」を主軸に、ケルン市、京都市をはじめゲーテ・インスティテュート、ケルン独日協会、天理日独文化工房等とも連携して幅広い分野の文化芸術交流事業を展開しました。また、JETRO、JNTO にも協力して、ビジネス交流や観光促進にもスポットをあてました。



© june ueno

3 フランス



「工匠たちの技と心—日本の伝統木造建築を探る」展

竹中工務店と共催により実施したこの展覧会は、「堂宮大工」「数寄屋建築」「木組み」の3要素に光を当て、茶室のスケルトンや数多くの大工道具、極限まで薄く削られた鉋屑、実際に木の香りを嗅いでいただくコーナーなど、工夫を凝らしたものでした。フランスは日曜大工好きが多く、環境への意識が高いといわれるだけあって評判を呼び、入場枠を求めて建物の外にまで長蛇の列ができる盛況を呈しました。



4 韓国



韓国における日本文化開放 25 周年記念シンポジウム「今、日韓文化交流の深層を考える」

2023 年は韓国における日本文化開放 25 周年の節目であることを記念し、「サブカルチャー、国、大衆、民主主義」といったキーワードで、日韓の文化交流の歴史を振り返りながら未来のあり方について考えるシンポジウムを、仁川大学日本研究所と共催しました。日本からキム・ソンミン教授（北海道大学）、福島みのり准教授（名古屋外国語大学）を招へいし、韓国の研究者と議論を行いました。当日の様子を収めた動画はセンターの YouTube 及びウェブサイト上で公開しています。



5 中国



伊藤比呂美氏講演ツアー

北京日本文化センター設立 30 周年記念事業として、詩人・小説家の伊藤比呂美氏と中国語翻訳者の蕾克氏を招へいし、上海、杭州、北京、天津の4都市の書店や大学など計 10 か所で講演ツアーを行いました。読者との交流会では、伊藤氏は若い読者からの人生相談に答えた後、一緒にズンバを踊って交流を深めました。日本研究・国際対話事業のフェロー交流会では、「説教節」が自らの創作に与えた影響についてお話しいただきました。



6 インドネシア



JF 日本語教育スタンダードセミナー

2024 年 3 月にスラバヤで JF 日本語教育スタンダード（以下、JFS）に関するセミナーを開催。東ジャワ州各地から日本語講師が 70 名以上集まり、JFS の考え方や教材の紹介、『まるごと 日本のことばと文化』、『いざいざ生活の日本語』などの教材を通して JFS を理解するためのワークショップを実施しました。近年、JFS の教材は広く普及しつつありますが、本セミナーはその理念を知ってもらう有意義な機会となりました。



7 タイ
バンコク
日本文化センター

作家の川口俊和氏をバンコクへ招へい

バンコクで開催された Neilson Hays Bangkok Literature Festival へ作家の川口俊和氏を招待し、トークセッションと同氏の作品が映像化された『コーヒーが冷めないうちに』の映画上映を行いました。またチュロンコン大学文学部と共催で実施した特別講演会では、日本語を学ぶ学生と対談形式で講演を行い、作家になった経緯や作品に込められた思いなどについてお話しいただきました。



8 フィリピン
マニラ
日本文化センター

和太鼓「倭」公演

コロナの影響で一旦は中止された和太鼓グループ「倭」の公演を、日 ASEAN 友好協力 50 周年を契機に、民間企業からの支援を得て実施。14 名の奏者、総計 1.5 トンを超える和太鼓の公演が実現し、マニラ、ダバオにおいて 4100 人を超える観客を魅了。公演後はマニラ日本人学校とミンダナオ国際大学への太鼓寄贈も行われ、現地太鼓クラブの活動活性化に貢献するなど、多くの人々の記憶に残る事業となりました。



9 マレーシア
クアラルンプール
日本文化センター

ASCA × spira spica from SACRA MUSIC Live Stage in Malaysia!

日本 ASEAN 友好協力 50 周年事業として、ComicFiesta（マレーシア最大規模のゲーム・アニメ・マンガ関連イベント主催者）、在マレーシア日本国大使館と共催で、アニソンアーティストの ASCA と spira spica の 2 組を招へい。12 月 23 日（土）のミート＆グリートには 1500 人、翌 24 日（日）のライブコンサートには約 2900 人が参加するなど、好評を博しました。



10 ミャンマー
ヤンゴン
日本文化センター

日本のお正月体験イベントの実施

お餅つきや書初め、福笑いやかきた取り等、日本の伝統的なお正月行事や習慣を紹介し、実際に体験できるイベントを開催したところ、会場にはあふれんばかりのたくさんの参加者に来場いただきました。ミャンマーでは政変以降、気軽に楽しめるイベントに限られており、当センターが実施する各種イベントは多くの方々に楽しい時間を提供するとともに、当地で急増する日本語学習者にとって日本文化に触れることができる貴重な機会となっています。



11 インド
ニューデリー
日本文化センター

FOIP の核インドの有識者ネットワークを育てる

自由で開かれたインド太平洋（FOIP）を具現化するための人づくりとネットワークを行う JFIPP プログラムは、印米豪日を主要参加国としたリサーチ・フェローシップをコアに 2023 年度から開始しました。FOIP の重要な核であるインドから優れた知識人、実務家が参加し共通課題に関する活発な議論が行われるよう、機関・研究者の調査を行いながらインド各地で第 1 期フェローを含む主要メンバーによるラウンドテーブル・ディスカッションを行いました。



12 オーストラリア
シドニー
日本文化センター

「AI SASAKI: WAYFINDER'S PASSAGE 渡りの道しるべ」展

2023 年 9 月から 2024 年 2 月にかけて「AI SASAKI: WAYFINDER'S PASSAGE 渡りの道しるべ」展を実施しました。本展では、水戸芸術館現代美術センターの井関悠氏のキュレーションにより、現代美術作家である佐々木愛氏のロイヤルアイシングの壁画、ドローイング、絵画、彫刻作品を展示しました。展示開始後、北海道から豪州タスマニアまで移動する渡り鳥オオジシギを描いた壁画の作品制作過程を一般公開し、アーティストによるロイヤルアイシングの子ども向けワークショップも実施しました。



© Document Photography

13 カナダ
トロント
日本文化センター

「動きの感覚：日本のスポーツ・ポスター」展

DNP 文化振興財団と共催した「動きの感覚：日本のスポーツ・ポスター」展では、1964 年東京五輪を皮切りに多彩に発展したスポーツ関連ポスター 68 点を展示。日本よりキュレーター・北沢永志氏を招き、日本のグラフィックデザインの系譜を紹介。会期中には、元大関・把瑠都氏の相撲トーク、カナダで活躍する日本人ジョッキー福元大輔氏の講演会、ブレイキン選手の山佐小夏氏とオントン・シー氏による公演も開催。スポーツという万人共通のテーマを通じて、多くの来場者に日本の芸術やスポーツ文化を紹介しました。



14 米国
ニューヨーク
日本文化センター

ミレヤ・ソリス博士の出版記念講演会を NY で実施

日本の対外経済政策等を専門に活躍するミレヤ・ソリス博士（ブルッキングス研究所東アジア政策研究センター所長）をお招きして、新著『Japan's Quiet Leadership: Reshaping the Indo-Pacific』の出版記念講演会をコロンビア大学のウェザーヘッド東アジア研究所と共催で実施しました。いかにして日本が「失われた 30 年」から立ち上がりインド太平洋地域の重要なアクターになりえたのかについてソリス氏に講演いただいた後に、コロンビア大学名誉教授のジェラルド・カーティス博士を交えて討論を行いました。



15 米国
ロサンゼルス
日本文化センター

日本語会話サロン「Tea Time」が復活、他団体との共催も

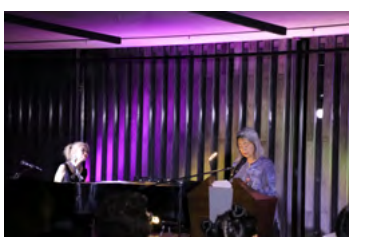
日本語母語話者と日本語学習者が集う会話サロン「Tea Time」は、2012 年から続く当センターの人気レギュラーイベント。初級から上級まで 4 レベルに分かれ、ボランティアの日本語母語話者を中心に会話を楽しめます。コロナ禍後の 2023 年はセンター内での開催のみならず、近隣の大学や高校生グループとの共催により、映画上映や三味線演奏を加えた出張 Tea Time も実現しました。毎回 100 名近くが集まり、対面ならではの交流の場としても有意義な会となっています。



16 メキシコ
メキシコ
日本文化センター

多和田葉子氏・高瀬アキ氏によるパフォーマンス『POEMAS PARA FRIDA』

メキシコを代表するアーティスト、フリーダ・カーロの作品に着想を得た朗読パフォーマンス『POEMAS PARA FRIDA』を実施しました。フリーダ・カーロにゆかりのあるアナワカリ美術館で行われた、ベルリン在住の作家・多和田葉子氏による朗読、ピアニスト・高瀬アキ氏の演奏に、満席となった会場からは拍手喝采。メキシコのアーティストと日本のアーティストが時を超えて作品を紡ぐ、稀有なイベントとなりました。



17 ブラジル



サンパウロ
日本文化センター

「アニメソングダンスバトル」ブラジル初開催

2024年のパリ五輪で「ブレイキン」が正式種目となり、ストリートダンスへの注目が高まる中、ブラジルにおける新たなダンス表現スタイルを模索する動きを受けた挑戦的な試みとして、日本発のアニメソングに合わせてダンス演技を行う「アニメソングダンス」の普及を目指す大会を開催しました。ゲストに「Real Akiba Boyz」を日本から迎え、約60名のダンサーがアニメの魅力とダンステクニックを見事に融合させた白熱したダンスバトルを繰り広げました。会場は初めて体験するダンススタイルに大いに沸きました。



© Sarara Rodrigues

18 ペルー



リマ
日本文化センター

白崎映美&東北6県ろ〜るショー!! ペルー公演

『白崎映美&東北6県ろ〜るショー!!』ペルーツアーを実施。日系学校、デイスサービス、日系人協会、AELU運動場、旧市街でのパレードなどでの演奏で多くの人々と触れ合いました。日系人の学校「インカ学園」ではこどもたちの熱烈な歓迎を受け、メンバーに抱きついて離れない子が続出。リマの旧市街を現地で制作した巨大人形「東北の神様」とともに練り歩き、リマっ子の熱い声援を受けました。最後のリマ市立劇場では観客が総立ちで、日本語で歌って踊ってくれました！



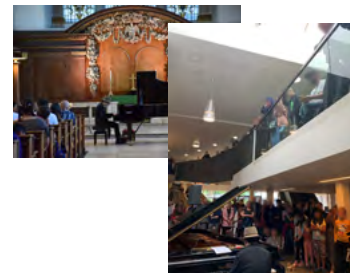
19 英国



ロンドン
日本文化センター

菊池亮太氏ピアノコンサート

YouTuberとしても人気のピアニスト、菊池亮太氏を英国に招へいし、ロンドンとバーミンガムでコンサートを開催。日英のアニメ・映画音楽や、ビートルズ、クイーンの楽曲などの演奏に、子供からお年寄りまで観客は大いに盛り上がりました。ロンドン滞在中にはストリートピアノの演奏も行い、菊池氏のチャンネル（www.youtube.com/@komuro_metal）に投稿されたその時の動画は、合計で1200万回以上視聴されています。（2024年7月末現在）



20 スペイン



マドリード
日本文化センター

スペインの中等教育機関で正式に日本語教育が始動！

カタルーニャ州の中等教育機関で2021年から試験的に導入された日本語コース（選択科目）の成功を受けて、同州教育庁の主導のもと、2023年秋季より6校で正式に日本語教育が始まりました。10月には市長、教育庁関係者、在バルセロナ総領事など60名以上の参加者を迎えて記念式典と和太鼓ワークショップを当センターが主催しました。当日の様子は日西双方の15社以上の主要メディア等で取り上げられるなど幅広く関心を集め、両国の歴史上記念すべき催しとなりました。



21 ハンガリー



ブダペスト
日本文化センター

発酵レクチャー・ワークショップ

2024年3月に、ルーマニアとハンガリーにおいて、発酵デザイナーの小倉ヒラク氏による一般向けの日本酒レクチャーや出汁づくりのワークショップ、プロの料理人向けの麹づくりワークショップ等を実施し、約180名の参加者の方々に、日本食・発酵に関する正しい知識と技術を身に付ける機会を提供しました。今後、受講した料理人の方々が、各々のレストランで日本の食文化を地元の人々に届けることが楽しみです。



22 ロシア



モスクワ
日本文化センター

かばんの中の日本語

本プログラムは、日本文化や日本語の備品を詰め込んだスーツケースを、日本語教育を実施する初等教育機関に貸与するものです。今年度、現下の情勢による在留邦人の減少により、現地在住の日本にルーツを持つ子供たちが日本文化や日本語に触れる機会が少なくなっていることを踏まえ、モスクワ日本人学校とサンクトペテルブルク日本語補習授業校に貸与しました。モスクワ日本人学校では、現地校との交流会等の若年者世代の交流活動で活用されました。



23 エジプト



カイロ
日本文化センター

アニメ監督招へい事業

カイロで開催された日本映画週間に合わせてアニメ監督の渡辺歩氏を招へいし、同監督の『漁港の肉子ちゃん』を上映、約420名が観賞しました。その後、トークイベントや、若手アニメーター約20名を対象にワークショップを実施しました。ワークショップでは、参加者の作品に対して渡辺氏がコメントを述べると、活発な議論が生まれました。本事業ではエジプトでの日本アニメへの関心の高さが伺えると同時に、アニメの奥深さを伝えることができました。



24 ベトナム



ベトナム
日本文化交流センター

日越50周年記念事業 漆画展「月」

日越外交関係樹立50周年（2023年）記念事業の一環として、ベトナムの伝統的な漆画の技法を使って活躍するアーティスト・安藤彩英子氏の「月」をテーマとする展覧会を当センターの展示ホールで開催。安藤氏は、50周年記念日越共同制作オペラ『アニオー姫』のキービジュアルも手掛けており、オペラ公演と合わせ、日越の文化交流を象徴する展覧会であるとして大きく注目され、山田駐ベトナム大使（当時）をはじめ、合計2000人以上の方々にお越しいただきました。



25 カンボジア



プノンペン
連絡事務所

過去最大規模となるカンボジア日本映画祭

2023年は「日・カンボジア外交関係樹立70周年」、そして「日ASEAN友好協力50周年」という節目の年ということで、9回目を迎えたカンボジア日本映画祭も、過去最大規模となる5都市で実施しました。地方でも積極的に行い、学生や家族連れなど、これまで日本文化に触れたことがなかった多くの方に映画を通じた日本文化体験を届け、合計8000人を超える動員を達成することができました。



26 ラオス



ビエンチャン
連絡事務所

「DigiCon6 ASIA」ラオスコンテスト

優れたコンテンツクリエイターの発掘を目的として、株式会社TBSテレビ主催で日本を含むアジア15か国・地域を対象に行われた「第25回DigiCon6 ASIA」のラオス国内における予選を実施し、上位3作品を本選に送付しました。10月7日に東京で行われた本選では、クアンチャイ・パニヴォン氏がRising Star Awardを受賞。ラオス人クリエイターが受賞するのは昨年度に続き2回連続の快挙となります。



1 主催公演

- 日本 ASEAN 友好協力 50 周年・日本インドネシア国交樹立 65 周年記念
劇団 SCOT『ディオニュソス』インドネシア公演（インドネシア・ジャカルタ）
- 日本 ASEAN 友好協力 50 周年記念
MIKAGE PROJECT コンサートと和楽器ワークショップ
（タイ・マハーサーラカム、バンコク、マレーシア・シャーアラム、ペタリンジャヤ）
- 日本 ASEAN 友好協力 50 周年記念 伊東歌詞太郎 フィリピン・ベトナム公演
（フィリピン・マニラ、ベトナム・ハノイ）
- 日本 ASEAN 友好協力 50 周年記念 CHAI ラオス・カンボジア公演
（ラオス・ピエンチャン、カンボジア・プノンペン）

2 舞台芸術国際共同制作

- 渋谷慶一郎×ジュスティース・エマール×アパッシオナート（フランス）
「渋谷慶一郎 アンドロイド・オペラ ⑧『MIRROR』」（成果発表：フランス・パリ）
- 石神夏希 × ナッタモン・プレームサムラン（タイ）「パラレル・ノーマリティーズ
「Whispering Blue—青い車の後部座席から聞こえた君の声」」
（成果発表：タイ・ルーイ県）
- 荒木優光、塚原悠也×ウィチャヤ・アータマート（タイ）「ジャグル&ハイド
（演出家を探すんだかわからない 7 つのモノたち）」（成果発表：京都）
- 白神ももこ ×ラタナコーン・インシシェンマイ（ラオス）「ラオス×日本 ろう者と
聴者が協同する『アジアのオブジェクトシアター』」（成果発表：東京）

3 日本祭り開催支援

- 全米桜祭りオープニング公演／森山直太郎、ワシントン・バレエ団
（演出振付：金森穰）、Kaoru Watanabe（米国・ワシントン DC）
- 日本ケニア外交関係樹立 60 周年記念／
和太鼓集団・鬼太鼓座オリジナル公演映像上映（ケニア・ナイロビ）

4 海外派遣助成

- 助成実績：
27 か国、117 都市、42 件

5 国際展

- 第 18 回ヴェネチア・ビエンナーレ建築展日本館展示「愛される建築を目指して」
（イタリア・ヴェネチア）

6 企画展

- 「久門剛史：丁寧に生きる」展（アラブ首長国連邦・ドバイ）

7 国際交流基金巡回展

- 15 セット、40 か国・地域 70 都市

8 海外展助成

- 17 か国・地域 23 都市、26 件

9 欧米ミュージアム基盤整備支援

- 3 か国 4 都市、4 館

10 翻訳出版助成

- 22 か国・地域、39 件

11 専門家交流

- 中東欧地域編集者グループ招へい（11 か国、11 人）
- スウェーデン編集者招へい協力（1 か国、7 人）
- 舞台芸術専門家招へい（5 か国、6 人）
- 石橋財団・国際交流基金 現代美術キュレーター等交流事業（5 か国、10 人）
- 石橋財団・国際交流基金 日本美術リサーチフェローシップ（15 か国、23 人）

12 情報発信

- 翻訳推薦図書・児童図書リスト「Worth Sharing」、[Lifelong Favorites]
（ウェブサイト・冊子）
- 「日本文学翻訳作品データベース」
- 第 75 回フランクフルト国際図書展を活用した翻訳出版分野情報発信
（ドイツ・フランクフルト）
- 世界の子どもの本展（東京）
- 第 17 回日本国際漫画賞受賞者招聘（4 か国、4 人）
- 日仏高校生交流アプリ「Nakamitié」
- 「パフォーミング・アーツ・ネットワーク・ジャパン (PANJ)」(舞台芸術ウェブサイト)
- 「STAGE BEYOND BORDERS」(舞台公演オンライン配信プロジェクト)
- 戯曲翻訳出版（1 か国、1 件）
- 「Doors to Arts of Japan」(美術・文化紹介映像ポータルサイト)
（「現代日本デザイン 100 選」新規制作）
- 「ヴェネチア・ビエンナーレ日本館展示」(特設ウェブサイト)
- 日本映画データベース (JFDB)

13 日本映画上映

- 80 か国・地域で日本映画祭・上映会を実施
- ミニシアター特集配信企画「JFF+ INDEPENDENT CINEMA」及び
「JFF+ INDEPENDENT CINEMA 2023」
- 日本映画発信ウェブサイト「JFF+」

14 テレビ番組紹介

- 56 か国・地域で 287 番組

1 「JF 日本語教育スタンダード」の活用推進

- 「JF 日本語教育スタンダード」(サイト) 年間アクセス数：約 23 万 8000 件
- 「みんなの Can-do サイト」年間アクセス数：約 35 万 7000 件
- 「まるごと 日本のことばと文化」海外出版 1 か国 2 レベル刊行
- 「いろいろ 生活の日本語」文法ワークシート・音声ファイル等コンテンツ拡充
- 「ひきだすにほんご Activate Your Japanese! コンテンツライブラリー」
(サイト) 字幕言語・解説記事等コンテンツ拡充
- 国内外の各種オンラインセミナー・研修会等での情報提供

2 インターネットを活用した教育ツール

- 「JF にほんご e ラーニング みなと」年間受講者数：約 15 万 8000 人
- 「いろいろ日本語オンラインコース」年間受講者数：約 5 万 9000 人
- 「みんなの教材サイト」年間アクセス数：約 164 万 6000 件
- 「まるごと 日本のことばと文化」(サイト) 年間アクセス数：約 513 万 8000 件
- 「まるごと + (まるごとプラス)」年間アクセス数：約 834 万件
- 「いろいろ 生活の日本語」(サイト) 年間アクセス数：約 438 万 5000 件
- 「ひろがる もっといろんな日本と日本語」年間アクセス数：約 52 万件
- 「アニメ・マンガの日本語」年間アクセス数：約 115 万件
- 「NIHONGO e な (いいな)」年間アクセス数：約 81 万件
- 「日本語でケアナビ」年間アクセス数：約 37 万件
- 「ひきだすにほんご Activate Your Japanese! コンテンツライブラリー」
(サイト) 年間アクセス数：約 36 万 1000 件
- 「エリンが挑戦！にほんごできます。コンテンツライブラリー」(サイト)
年間アクセス数：約 137 万 9000 件
- 「エリンと挑戦！にほんごテスト」(初学者向けアプリ)
年間ダウンロード数：約 1 万件
- HIRAGANA Memory Hint (文字学習アプリ) 年間ダウンロード数：約 16 万件
- KATAKANA Memory Hint (文字学習アプリ) 年間ダウンロード数：約 9 万件
- KANJI Memory Hint 1,2,3 (文字学習アプリ) 年間ダウンロード数：約 8 万件

3 日本語能力評価のための試験

- 日本語能力試験 (JLPT)
第 1 回試験 (7 月 2 日)：海外 54 か国・地域、168 都市、
受験者数 40 万 4996 人
国内 *47 都道府県、受験者数 19 万 7144 人
第 2 回試験 (12 月 3 日)：海外 84 か国・地域、247 都市、
受験者数 42 万 6748 人
国内 *47 都道府県、受験者数 23 万 6547 人
*日本国内での試験は、共催者である (公財) 日本国際教育支援協会が実施
- 国際交流基金日本語基礎テスト (JFT-Basic)
毎月実施 海外 11 か国、21 都市、国内 47 都道府県
受験者数 10 万 3183 人

4 日本語事業に関する調査、情報提供

- 「国際交流基金日本語教育論集」(年 1 回の発行)
- 「日本語教育通信」(月 1 回の更新) 年間アクセス数：約 51 万件
- 「日本語教育 国・地域別情報」サイトの運営

5 海外事務所における日本語事業及び「JF にほんごネットワーク」(さくらネットワーク)

- 国際交流基金海外事務所及び日本人材開発センター日本語事業部門
(日本センター) 事業：28 か国、358 件
- 「さくらネットワーク」：101 か国・地域、355 機関
海外日本語教育機関支援 (助成)：79 か国・地域、443 件

6 日本語専門家等の海外派遣

- 日本語上級専門家：15 か国、29 ポスト
- 日本語専門家：35 か国 72 ポスト
- 日本語指導助手：11 か国、13 ポスト
- 米国若手日本語教員 (J-LEAP)：1 か国、12 ポスト
- 生活日本語コーディネーター：5 か国 8 ポスト

7 海外の教師を対象とした招へい研修**海外日本語教師研修**

- 基礎 (訪日)：29 か国、41 人
- 教授法 (訪日)：28 か国・地域、62 人
- 大韓民国中等教育日本語教師研修 (訪日)：1 か国、31 人
- 中国中等学校日本語教師研修 (訪日)：1 か国、18 人
- フィリピン中等教育日本語教師研修 (訪日)：1 か国、17 人
- テーマ別：11 か国・地域、25 人
「テーマ別 (文字の教え方) (オンライン)：9 か国、11 人
「テーマ別 (学習を評価する) (オンライン)：11 か国、14 人」
- 日本語 (訪日)：18 か国、32 人
- 特定技能制度による来日希望者のための日本語教授法研修：12 か国、59 人
「第 1 回 (訪日)：6 か国、28 人
「第 2 回 (訪日)：6 か国、22 人
「第 3 回 (訪日)：5 か国、9 人」

- 大阪府クイーンズランド州日本語教師研修：1 か国、5 人
- タイ中等教育日本語教育リーダー教師育成プロジェクト訪日研修：1 か国、
14 人
- 「いろいろ日本語オンラインコース」活用オンラインセミナー (2023 年 8 月)
(オンライン) :12 か国、55 人

8 海外の学習者等を対象とした招へい研修**専門日本語研修**

- 2022 年度 (前年度からの継続)
外交官・公務員研修：25 か国、28 人
- 2023 年度
外交官・公務員研修：34 か国、34 人
文化・学術専門家研修 5 か月コース：6 か国、7 人
文化・学術専門家研修 2 か月コース：6 か国、7 人

日本語学習者訪日研修

- 各国成績優秀者研修：41 か国、41 人
- 李秀賢氏記念韓国青少年訪日研修：1 か国、20 人

9 経済連携協定 (EPA) 関連日本語教育研修

- インドネシア及びフィリピンにおいて、看護師・介護福祉士候補者を対象に、
日本語予備教育事業を 6 か月間実施
- EPA 研修：2 か国、4 件
2022 年度 (継続) インドネシア：314 人 フィリピン：231 人
2023 年度 (新規) インドネシア：312 人 フィリピン：247 人

10 受託研修**教師研修**

- 博報堂教育財団日本語教育プログラム第 1 回日本研修：1 か国、26 人
- 博報堂教育財団日本語教育プログラム第 2 回日本研修：1 か国、34 人
- 笹川平和財団 中国大学日本語教員上級研修：(第 1 期) 1 か国、23 人
- 日露青年交流センター 日本語教師派遣事業 夏季研修：1 か国、6 人
- ニュージーランド中等教育日本語教師研修：1 か国、6 人

学習者研修

- 大阪ガス国際交流財団インドネシア大学生日本語研修：1 か国、2 人
- 大阪大学日本語専修短期研修型プログラム (J-ShIP)：(夏季) 4 か国、47 人
(冬季) 4 か国、19 人
- 関西日本ラトビア協会日本語学習者訪日研修：1 か国、1 人
- タイ アサンブション・トンブリ学校訪日研修：1 か国、26 人
- タイ スックサーナリー学校訪日研修：1 か国、20 人
- マレーシア中等学校 (スルトンイスマイル国民中等学校ほか) 訪日研修：1 か国、
42 人
- メキシコ州日本語協会訪日研修：1 か国、8 人

11 その他の研修

- 大阪府 JET 青年来日時研修：9 か国、77 人
- 全国 JET 日本語教授法研修：20 か国、58 人
- 日本につながる子どもの日本語教育関係者ミーティング：16 か国、18 人

12 各センターの図書館

- 日本語国際センター 来館者数：7930 人
- 関西国際センター 来館者数：1 万 1920 人

13 日本語パートナーズ派遣事業

- 派遣実績
インドネシア：71 人
カンボジア：24 人
タイ：76 人
台湾：89 人
中国：39 人
フィリピン：18 人
ブルネイ：12 人
ベトナム：34 人
マレーシア：14 人
ラオス：4 人

計 381 人

14 日本語パートナーズの帰国後フォローアップ事業

- 日本語パートナーズ感謝状贈呈式及び交流会 68 人
- 多文化共生分野で活躍したい日本語パートナーズ経験者のためのステップアップ・
ワークショップ
関東開催：34 人
関西開催：37 人

1 日本研究機関支援

1. 日本研究基盤整備

韓国：翰林大学、高麗大学、ソウル大学日本研究所、ソウル大学アジア言語文学学部

中国：浙江工商大学、南開大学、復旦大学

台湾：政治大学

インドネシア：インドネシア大学

ベトナム：ベトナム国家大学附属人文社会科学大学ハノイ校

インド：ジャワハルラル・ネルー大学言語・文学・文化学部、

ジャワハルラル・ネルー大学国際関係学部、デリー大学、ビシュババラティ大学

バングラデシュ：ダッカ大学

豪州：オーストラリア国立大学

米国：クラーク大学、スワスマア大学、テキサス大学オースティン校、

ハンターカレッジ、バードカレッジ、ペンシルバニア大学、ルイビル大学

2. 現代日本理解特別プログラム

米国：カリフォルニア大学サンディエゴ校

イタリア：欧州大学院大学

3. 日本研究プロジェクト助成

● 20 か国・地域、26 件

2 北京日本学研究センター

1. 招へい事業

● 北京外国語大学

訪日研究（修士第 37 期生）：10 人

博士フェロー（第 21・22 期生）：4 人

● 北京大学

訪日研修（博士第 15-18 期）：18 人

2. 派遣事業（オンライン含む）

● 北京外国語大学：3 人（オンライン）

● 北京大学：3 人（派遣）、9 人（オンライン）

3 日本研究フェローシップ

● 122 人（前年度からの滞在継続者を含む）

4 日本研究ネットワーク強化

1. 主催・共催

● 国際シンポジウム「世界とつながる日本文学 ～after murakami～」

● 日本研究フェロー・カンファレンス（9 月：東京大学東洋文化研究所との共催、10 月：国際日本文化研究センターとの共催）

● 第 7 回東アジア日本研究者協議会国際学術大会

● 第 5 回次世代日本研究者協働研究ワークショップ

2. 助成事業：14 か国、18 件

5 国際対話・ネットワーク形成強化事業

主催・共催

● 「文化交流が育てるアジアの次世代」（日経フォーラム 第 28 回「アジアの未来」）

● 国際シンポジウム「日・ASEAN 間におけるモビリティ―その未来をどう形づくるか」（日本 ASEAN 友好協力 50 周年記念事業）

● 国際交流基金（JF）×ゲンロン共催グローバル対談
「再構築され続ける『記憶』と『国民の物語』」

● 国際交流基金（JF）×中央公論グローバル対談「大国化するインドの内側では」

● 文芸対話プロジェクト“YOMU”トークセッション
「文学におけるジェンダー、文化、政治の交差するところ」

● 「「限りある時間」と冒険 不確実性を生きる」
（「朝日地球会議 2023」特別共催セッション）

● ウクライナ詩人オスタップ・スリヴィンスキー氏招へい事業

● 漫画・アニメ・キャラクターデザイン専門家 中南米巡回派遣対話事業

● 「日独対話から考える食の未来 2―食育とコミュニケーション―」
（ベルリン日独センター共催シンポジウム）

● 日中知的交流強化事業：個人招へい 3 件、グループ招へい 1 件

● 日 ASEAN ユース・フォーラム「Take Actions for Social Change 2023」

6 日米間の知的対話・交流事業（日米グローバル・パートナーシップ強化）

1. 助成事業

● 企画参画助成：6 件（新規 3 件 / 継続 3 件）

● 公募助成：9 件（新規 4 件 / 継続 5 件）

2. ニューヨーク日本文化センター

● 日米協会キャパシティービルディング助成事業：8 件

● 草の根アウトリーチ人材支援助成事業：3 件

● 全米日米協会連合会（NAJAS）支援助成事業：1 件

● 教育アウトリーチ小規模助成事業：16 件

● 日米グローバルパートナーシップ小規模助成事業：6 件

● 安倍フェローシップ・フォローアップ事業：1 件

● その他事業（主催 / 助成）：3 件

7 インド太平洋パートナーシップ・プログラム（JFIPP）

1. JFIPP リサーチ・フェローシップ

● 第 1 期：16 名

2. JFIPP ネットワーク・フェローシップ

● 防災グループ（Indo-Pacific Cooperation Network）：10 か国、15 名

● 気候変動グループ（Indo-Pacific Leadership Lab）：12 か国、16 名

3. 関連事業

● ミレヤ・ソリス博士「Japan's Quiet Leadership: Reshaping the Indo-Pacific」
出版記念講演会

8 市民・草の根レベルでの相互理解増進事業

1. 日米草の根交流コーディネーター事業（JOI）

● 18 名（新規：8 名 / 継続：10 名）

2. 日米相互理解促進事業

● 日系アメリカ人リーダーシップ・シンポジウム

3. 日中高校生交流事業

● 「心連心：中国高校生長期招へい事業」：第 15 期生 9 名が来日

● 日中高校生対話・協働プログラム：日中高等学校間のオンライン交流事業：10 件

4. 中国「ふれあいの場」

● 中国「ふれあいの場」：18 か所に設置（のべ利用者数 2 万 3481 人）

● 日本文化セミナー：7 件（参加者数：820 名）

● 「ふれあいの場」実務担当者会議（オンライン）：1 件（参加者数：17 名）

● 「ふれあいの場」代表学生訪日研修：2 件（参加者数：35 名）

5. 交流ネットワークの促進

● 大学生交流事業（オンライン）：3 件（参加者数：34 名）

● 大学生交流事業（派遣）：1 件（参加者数：3 名）

● 「ふれあいの場サポーター事業」参加者数：13 名

● 日中次世代交流ネットワーク助成：3 件

● 「心連心：中国高校生長期招へい事業」卒業生交流会：2 件（参加者数：42 名）

● 大学生交流事業参加者交流会：1 件（参加者数：71 名）

● 心連心ウェブサイトの運営（日中両言語）

海外事務所

【イタリア】ローマ日本文化会館

The Japan Cultural Institute in Rome

Address: Via Antonio Gramsci 74, 00197

Roma, Italy

TEL: 39-06-322-4754

【ドイツ】ケルン日本文化会館

The Japan Cultural Institute in Cologne

Address: Universitätsstraße 98, 50674 Köln,

Bundesrepublik Deutschland (Germany)

TEL: 49-221-9405580 FAX: 49-221-9405589

URL: <https://co.jpif.go.jp/>（ドイツ語・日本語）

【フランス】パリ日本文化会館

The Japan Cultural Institute in Paris

Address: 101 bis, quai Jacques Chirac, 75740

Paris Cedex 15, France

TEL: 33-1-44-37-95-00 FAX: 33-1-44-37-95-15

URL: <https://www.mcjp.fr/>（フランス語・日本語）

【韓国】ソウル日本文化センター

The Japan Foundation, Seoul

Address: Office Bldg. 2F, Twin City

Namsan, 366 Hangang-daero, Yongsan-gu,

Seoul 04323 Korea

TEL: 82-2-397-2820 FAX: 82-2-397-2830

URL: <https://www.jpif.or.kr/>（韓国語・日本語）

【中国】北京日本文化センター

The Japan Foundation, Beijing

Address: #301, 3F SK Tower, No.6 Jia

Jianguomenwai Avenue, Chaoyang District,

Beijing, 100022 China

TEL: 86-10-8567-9511 FAX: 86-10-8567-9075

URL: <https://www.jpfbj.cn/>（中国語・日本語）

【インドネシア】ジャカルタ日本文化センター

The Japan Foundation, Jakarta

Address: Summitmas II Lt. 1.2, Jl. Jenderal

Sudirman, Kav. 61-62 Jakarta 12190, Indonesia

TEL: 62-21-520-1266

URL: <https://ja.jpif.go.jp/>

（インドネシア語・英語・日本語）

【タイ】バンコク日本文化センター

The Japan Foundation, Bangkok

Address: 10F Serm-mit Tower,

159 Sukhumvit 21 Road (Asoke Montri),

Bangkok 10110 Thailand

TEL: 66-2-260-8560

URL: <https://ba.jpif.go.jp/>（タイ語・英語・日本語）

【フィリピン】マニラ日本文化センター

The Japan Foundation, Manila

Address: 23F, Pacific Star Building, Sen. Gil

Puyat Avenue, corner Makati Avenue, Makati

City, 1226, Philippines

TEL: 63-2-5322-3200

URL: <https://www.jfmo.org.ph/>（英語）

【マレーシア】クアラルンプール日本文化センター

The Japan Foundation, Kuala Lumpur

Address: 18th Floor, Northpoint Block B,

Mid-Valley City, No.1, Medan Syed Putra,

59200, Kuala Lumpur, Malaysia

TEL: 60-3-2284-6228 FAX: 60-3-2287-5859

URL: <https://www.jfkl.org.my/>（英語）

【ミャンマー】ヤンゴン日本文化センター

The Japan Foundation, Yangon

Address: No.70 Nat Mauk Lane (1), Bahan

Township, Yangon Myanmar

TEL: 95-1-430-920/95-1-430-921/95-9-

893118255

FAX: 95-1-430-922

URL: <https://yg.jpif.go.jp/>（ミャンマー語・英語）

【インド】ニューデリー日本文化センター

The Japan Foundation, New Delhi

Address: A-13 Aurobindo Marg, Green Park,

New Delhi, 110016, India

TEL: 91-11-4606-5769/4558-8698

URL: <https://nd.jpif.go.jp/>（英語）

【オーストラリア】シドニー日本文化センター

The Japan Foundation, Sydney

Address: Level 4, Central Park, 28 Broadway,

Chippendale NSW 2008 Australia

TEL: 61-2-8239-0055

URL: <https://sydney.jpif.go.jp/>（英語）

【カナダ】トロント日本文化センター

The Japan Foundation, Toronto

Address: 2 Bloor Street East, Suite 300, PO Box

130, Toronto, Ontario, Canada M4W 1A8

TEL: 1-416-966-1600

URL: <https://tr.jpif.go.jp/>（英語）

【米国】ニューヨーク日本文化センター

The Japan Foundation, New York

Address: 1700 Broadway, 15th Floor,

New York, NY 10019, U.S.A.

TEL: 1-212-489-0299

URL: <https://ny.jpif.go.jp/>（英語）

【米国】ロサンゼルス日本文化センター

The Japan Foundation, Los Angeles

Address: 5700 Wilshire Boulevard, Suite 100

Los Angeles, CA 90036, U.S.A.

TEL: 1-323-761-7510

URL: <https://www.jfialc.org/>（英語）

【メキシコ】メキシコ日本文化センター

The Japan Foundation, Mexico

Address: Av. Ejército Nacional #418 Int. 207, Col.

Polanco V sección, C.P. 11560 CDMX México

TEL: 52-55-5254-8506

URL: <https://mc.jpif.go.jp/>（スペイン語）

【ブラジル】サンパウロ日本文化センター

The Japan Foundation, São Paulo

Address: Av. Paulista, 52-3º andar Bela Vista,

CEP 01310-900, São Paulo-SP, Brazil

TEL: 55-11-3141-0843/55-11-3141-0110

URL: <https://fjisp.org.br/>（ポルトガル語）

【ペルー】リマ日本文化センター

The Japan Foundation, Lima

Address: Calle. Coronel Andrés Reyes 360 N° 503

edificio ONYX, San Isidro, Lima 15046, Perú

TEL: 51-1-308-3848

【英国】ロンドン日本文化センター

The Japan Foundation, London

Address: 101-111 Kensington High Street,

London, W8 5SA, U.K.

TEL: 44-20-7492-6570

URL: <https://www.jpif.org.uk/>（英語）

【スペイン】マドリード日本文化センター

The Japan Foundation, Madrid

Address: Palacio de Cañete - 2a Planta

C/ Mayor, 69-28013 Madrid, Spain

TEL: 34-91-310-1538

URL: <https://md.jpif.go.jp/>（スペイン語・日本語）

【ハンガリー】ブダペスト日本文化センター

The Japan Foundation, Budapest

Address: Oktogon Haz 2F, 1062 Budapest,

Aradi utca 8-10, Hungary

TEL: 36-1-214-0775 FAX: 36-1-214-0778

URL: <https://www.japanalapitvany.hu/>

（ハンガリー語・日本語・英語）

【ロシア】モスクワ日本文化センター

The Japan Foundation, Moscow

URL: <https://www.jpfmw.ru/>（ロシア語・日本語）

【エジプト】カイロ日本文化センター

The Japan Foundation, Cairo

Address: 5th Floor, 106 Qasr Al-Aini Street,

Garden City, Cairo, Egypt

TEL: 20-2-2794-9431/20-2-2794-9719

【ベトナム】ベトナム日本文化交流センター

The Japan Foundation Center for

Cultural Exchange in Vietnam

Address: No. 27 Quang Trung Street,

Hoan Kiem District, Hanoi, Vietnam

TEL: 84-24-3944-7419 FAX: 84-24-3944-7418

URL: <https://hn.jpif.go.jp/>（ベトナム語・日本語）

【カンボジア】プノンベン連絡事務所

The Japan Foundation,

Phnom Penh Liaison Office

Address: #22, Ground Floor of Hotel

Cambodiana, 313 Sisowath Quay,

Phnom Penh, Kingdom of Cambodia

TEL: 855-23-21-4581

URL: <https://pp.jpif.go.jp/>（英語）

【ラオス】ビエンチャン連絡事務所

The Japan Foundation, Vientiane Liaison Office

Address: Allianz Building 3rd Floor, 33 Lane

Xang Avenue, Ban Hatsady, Chantabouly

District, Vientiane, Lao PDR

TEL: 856-21-240-280

URL: <https://jfacvt.la/>（ラオス語・英語）

国際交流基金は、企業、団体、個人等、広く民間からの資金協力による支援を受けて国際文化交流事業を実施しています。
ここでは、2023 年度の民間からの資金協力について寄附金制度を中心に紹介するとともに、主に寄附金制度を通じて資金協力をいただいた方々や、その協力による支援を受けた事業を紹介します。

1. 資金協力の種類

(1) 一般寄附金

国際交流基金による国際文化交流事業の経費の財源として活用します。

1. 一般寄附金制度

企業、団体、個人より、時期、金額とも任意で受け入れる寄附金です。2023 年度に寄附金をいただいた方々は、次ページの「事業費への寄附者」、「民間出えん金寄附者」のとおりです。

● 事業費への寄附

寄附金を受け入れた年度の事業経費として活用します。寄附者の希望により、実施事業の中から、寄附金を充当する事業を指定することも可能です。

● 基金（ファンド）への寄附（民間出えん金）

寄附金を基金（ファンド）に組み入れ、その運用利息を毎年度の事業費として恒久的に活用します。過去に受け入れた民間出えん金による 2023 年度の事業実施状況は、次ページの「民間出えん金による支援事業」のとおりです。

2. 法人会員制度（賛助会）

企業、団体等の法人より年会費として一定額の寄附金を受け入れ、受け入れた年度の事業経費として活用します。1 □ 10 万円で、普通会員（1 ～ 4 □）と特別会員（5 □以上）があります。会員には、催しの案内、「国際交流基金年報」の送付等、各種特典を提供しています。2023 年度に支援をいただいた会員は次ページの「賛助会会員」のとおりです。

(2) 特定寄附金

国内の法人や個人が国内外の国際文化交流事業を支援する場合に、特定公益増進法人である国際交流基金が、その支援資金を寄附金として受け入れ、対象事業への助成金として交付する制度です。本制度を利用することで、法人や個人は寄附金に対する税制上の優遇措置を受けることができます。
対象となる事業は、国際文化交流を目的とする人物交流、海外における日本研究や日本語教育、国際文化交流を目的とする公演・展示・セミナー等の催し等です。特定寄附金の受入れは、外部専門家で構成される審査委員会への諮問を経て決定します。2023 年度の支援事業は次ページの「特定寄附金による支援事業」のとおりです。

(3) その他

上記の寄附金のほか、協賛金、助成金等、さまざまな形で民間からの資金協力による支援をいただいております。
2023 年度の主な支援の例は、次ページの「寄附金以外の主な支援例」のとおりです。

2. 寄附金に対する税制上の優遇措置

国際交流基金は法人税法施行令第 77 条及び所得税法施行令第 217 条により「公益の増進に著しく寄与する法人」（特定公益増進法人）に指定されており、上記の資金協力のうち、国内での寄附金については税制上の優遇措置の対象となります。

(1) 法人の場合

特定公益増進法人に対する寄附金の合計額、または、特別損金算入限度額のいずれか少ない金額が損金に算入されます。

(注1) 特定公益増進法人に対する寄附金のうち、損金に算入されなかった金額（特別損金算入限度額を超える部分の金額）は、通常の寄附金の額に含めます。寄附金の損金算入限度額は次の算式によります。

● 特定公益増進法人に対する寄附金の損金算入限度額

(特別損金算入限度額)
(資本金等の額×当期の月数 /12 × 0.375% + 所得の金額 × 6.25%) × 1/2

● 通常の寄附金の損金算入限度額

(資本金等の額×当期の月数 /12 × 0.25% + 所得の金額 × 2.5%) × 1/4

(2) 個人の場合

所得の 40%を上限として、寄附金の合計額から 2,000 円を差し引いた金額が所得控除の対象となります。相続財産からの寄附についても、税制上の優遇措置があります。

3. 2023 年度寄附金額実績

	件数	金額
一般寄附金	52 件	163,406,000 円
賛助会	27 件	5,400,000 円
事業費への寄附	25 件	163,006,000 円
民間出えん金	0 件	0 円
特定寄附金	16 件	356,583,923 円 (注 2)

(注2) うち、393,842,307円（2022年度より繰り越した特定寄附金58,091,284円含む）を13事業（次ページ「特定寄附金による支援事業」参照）に対する助成金として交付しました。残額（20,832,900円）は、6件の事業に対する助成金として2024年度に交付予定です。

(注3) 1972年の国際交流基金設立以来2023年度末までの累計で、一般寄附金として約32億7,367万円、特定寄附金として約724億2,166万円を受け入れています。

(注4) 寄附金以外の民間からの資金協力として、2023年度に総額約1億円の支援（協賛金、助成金等）をいただいています。

2023 年度の寄附金等による支援者や支援事業一覧

事業費への寄附者（（ ）内は寄附対象事業、順不同）

- 柳井正氏（UCLA マイケル・エメリック教授の主導する日本学研究推進事業）
- 大林剛郎氏、(株) 南方ホールディングス、(株) アルフレックスジャパン、(株) レジストアート、ほか 4 法人並びに個人 14 人（第 60 回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展 日本館展示）
- 久米真氏、中山博規氏（事業費全般）

民間出えん金による支援事業（順不同）

(寄附者の意向に基づき特別事業を設定し、事業名に寄附者の名を付する冠寄附の例)

●高砂熱学工業・日本研究フェローシップ

(寄附者は高砂熱学工業（株）)

●渡辺健基金・日本研究フェローシップ

(寄附者は渡辺行信氏、米国研修中に事故で逝去された元外務省職員渡辺健氏のご遺族)

賛助会会員（2023 年度末現在、50 音順）

(1) 特別会員

SMBC 日興証券（株）／松竹（株）／（株）みずほ銀行

(2) 普通会員

(公財) あすか財団／（一財）池坊華道会／出光興産（株）／（一財）NHK 財団／カトーレック（株）／（株）講談社／（公財）講道館／（一財）今日庵／（株）資生堂／（一財）少林寺拳法連盟／（一財）全日本剣道連盟／（株）第一成和事務所／大和証券（株）／東京ビジネスサービス（株）／（一社）日本映画製作者連盟／（株）日本折紙協会／（一財）日本国際協力センター／野村證券（株）／（株）日立製作所／（株）凡人社／（株）三井住友銀行／三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券（株）／森ビル（株）ほか法人 1 社

特定寄附金による支援事業（（ ）内は事業実施国、順不同）

アジア女子大学奨学金プログラム（バングラデシュ）

三笠宮記念財団支援事業（トルコ）

CWAJ 女性のための国際文化交流奨学金制度（日本他）

LSH アジア奨学金（日本）

第 27 回ホノルルフェスティバル（米国）

MOGU 絵本プロジェクト（ベトナム）

南砺市いなみ国際木彫刻キャンプ 2023（日本）

バルカン室内管弦楽団公演 2023(日本)

「ミュージック・フロム・ジャパン 2024 年音楽祭」アーティスト・レジデンス（米国）

JACSO 海外公演プロジェクト 2024（イタリア）

四天王寺ワッソ（日本）

日韓交流おまつり 2023 in Tokyo（日本）

ジャパン・インスティテュート：プレミアアートスタジオとシアター（米国）

寄附金以外の主な支援例（順不同）

パリ日本文化会館・日本友の会（会員数 70 社 /2023 年度末現在）によるパリ日本文化会館への事業実施支援
(公財) 石橋財団（日本美術リサーチフェローシップ事業への寄附助成、現代美術キュレータ等交流授業への寄附助成、ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展における日本館展示への寄附助成）
(公財) 大林財団（ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展における日本館展示協賛）
(株) 竹中工務店、(同) ヴォーチェ、太平ビルサービス（株）（ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展における日本館展示協賛）
(株) コミックス・ウェーブ・フィルム（インドにおける日本映画祭事業協賛）
(一社) 尚友倶楽部（タマサート大学大学院日本研究科博士課程訪日研修）
(公財) かめのり財団（「にほんご人フォーラム」関連事業共催分担金、ほか）

財務諸表

令和5年度 決算報告書 (2023年4月1日～2024年3月31日)

(単位：円)

区別	文化芸術交流事業費				海外日本語事業費				海外日本研究・国際対話事業費			
	予算額	決算額	差額	備考	予算額	決算額	差額	備考	予算額	決算額	差額	備考
収入												
運営費交付金	2,322,756,000	2,322,756,000	0		3,684,443,000	3,684,443,000	0		1,152,805,000	1,152,805,000	0	
施設整備費補助金	0	0	0		199,955,000	0	△ 199,955,000	※ 2	0	0	0	
アジア文化交流強化事業費補助金	0	0	0		0	0	0		0	0	0	
運用収入	0	0	0		0	2,289,553	2,289,553		673,069,000	731,906,769	58,837,769	
寄附金収入	34,150,000	13,000,000	△ 21,150,000		0	1,038,060	1,038,060		22,668,000	150,238,675	127,570,675	※ 5
受託収入	0	0	0		45,731,000	72,256,564	26,525,564		0	0	0	
アジア文化交流強化基金取崩収入	0	0	0		715,965,000	752,230,360	36,265,360		0	0	0	
その他収入	0	97,732,905	97,732,905		1,254,211,000	2,172,173,810	917,962,810	※ 3	54,364,000	86,239,587	31,875,587	
前中期目標期間繰越積立金取崩収入	0	0	0		0	0	0		0	30,286,678	30,286,678	
計	2,356,906,000	2,433,488,905	76,582,905		5,900,305,000	6,684,431,347	784,126,347		1,902,906,000	2,151,476,709	248,570,709	
支出												
業務経費	2,405,987,000	1,821,511,361	584,475,639	※ 1	5,700,350,000	7,276,762,496	△ 1,576,412,496	※ 4	1,902,906,000	1,822,365,366	80,540,634	
施設整備費	0	0	0		199,955,000	7,471,041	192,483,959	※ 2	0	0	0	
一般管理費	0	0	0		0	0	0		0	0	0	
うち人件費	0	0	0		0	0	0		0	0	0	
物件費	0	0	0		0	0	0		0	0	0	
予備費	0	0	0		0	0	0		0	0	0	
計	2,405,987,000	1,821,511,361	584,475,639		5,900,305,000	7,284,233,537	△ 1,383,928,537		1,902,906,000	1,822,365,366	80,540,634	

区別	調査研究・情報提供等事業費				在外事業費				文化交流施設等協力事業費			
	予算額	決算額	差額	備考	予算額	決算額	差額	備考	予算額	決算額	差額	備考
収入												
運営費交付金	771,097,000	771,097,000	0		4,309,192,000	4,309,192,000	0		0	0	0	
施設整備費補助金	0	0	0		0	0	0		0	0	0	
アジア文化交流強化事業費補助金	0	0	0		0	0	0		0	0	0	
運用収入	9,410,000	909,883	△ 8,500,117		96,647,000	63,632,465	△ 33,014,535		0	169,672	169,672	
寄附金収入	6,276,000	412,532	△ 5,863,468		0	3,639,806	3,639,806		385,898,000	356,660,850	△ 29,237,150	
受託収入	0	0	0		0	0	0		0	0	0	
アジア文化交流強化基金取崩収入	0	0	0		0	0	0		0	0	0	
その他収入	32,114,000	74,923	△ 32,039,077		163,697,000	60,080,148	△ 103,616,852	※ 6	9,416,000	0	△ 9,416,000	
前中期末目標期間繰越積立金取崩収入	0	0	0		0	0	0		0	0	0	
計	818,897,000	772,494,338	△ 46,402,662		4,569,536,000	4,436,544,419	△ 132,991,581		395,314,000	356,830,522	△ 38,483,478	
支出												
業務経費	818,897,000	820,327,848	△ 1,430,848		4,569,536,000	4,657,006,735	△ 87,470,735		395,314,000	404,111,541	△ 8,797,541	
施設整備費	0	0	0		0	0	0		0	0	0	
一般管理費	0	0	0		0	0	0		0	0	0	
うち人件費	0	0	0		0	0	0		0	0	0	
物件費	0	0	0		0	0	0		0	0	0	
予備費	0	0	0		0	0	0		0	0	0	
計	818,897,000	820,327,848	△ 1,430,848		4,569,536,000	4,657,006,735	△ 87,470,735		395,314,000	404,111,541	△ 8,797,541	

区別	法人共通				合計			
	予算額	決算額	差額	備考	予算額	決算額	差額	備考
収入								
運営費交付金	1,741,386,000	1,741,386,000	0		13,981,679,000	13,981,679,000	0	
施設整備費補助金	0	0	0		199,955,000	0	△ 199,955,000	
アジア文化交流強化事業費補助金	40,000,080,000	40,000,080,000	0		40,000,080,000	40,000,080,000	0	
運用収入	0	0	0		779,126,000	798,908,342	19,782,342	
寄附金収入	0	0	0		448,992,000	524,989,923	75,997,923	
受託収入	0	0	0		45,731,000	72,256,564	26,525,564	
アジア文化交流強化基金取崩収入	0	0	0		715,965,000	752,230,360	36,265,360	
その他収入	0	2,565,068	2,565,068		1,513,802,000	2,418,866,441	905,064,441	
前中期目標期間繰越積立金取崩収入	0	0	0		0	30,286,678	30,286,678	
計	41,741,466,000	41,744,031,068	2,565,068		57,685,330,000	58,579,297,308	893,967,308	
支出								
業務経費	0	0	0		15,792,990,000	16,802,085,347	△ 1,009,095,347	
施設整備費	0	0	0		199,955,000	7,471,041	192,483,959	
一般管理費	1,741,386,000	1,627,322,416	114,063,584		1,741,386,000	1,627,322,416	114,063,584	
うち人件費	607,341,000	585,636,690	21,704,310		607,341,000	585,636,690	21,704,310	
物件費	1,034,045,000	1,041,685,726	△ 7,640,726		1,034,045,000	1,041,685,726	△ 7,640,726	
予備費	100,000,000	0	100,000,000	※ 7	100,000,000	0	100,000,000	
計	1,741,386,000	1,627,322,416	114,063,584		17,734,331,000	18,436,878,804	△ 702,547,804	

※ 1 令和 5 年度補正予算が予算額に含まれているが、決算額には含まれていないこと等のため。

※ 2 施設整備費事業において、事業の一部が翌年度完成となったため。

※ 3 日本語能力試験収入が受験者増により増加したこと等のため。

※ 4 令和 4 年度補正予算が予算額には含まれていないが、決算額には含まれていること等のため。

※ 5 大口の寄附金収入があったため。

※ 6 海外事務所で見込んだ収入が減少したこと等のため。

※ 7 予備費の繰越しを行ったため。

貸借対照表 (2024年3月31日)

(単位：円)

Ⅰ 流動資産	資産の部	
	現金及び預金	47,719,098,202
	有価証券	4,457,668,401
	前払金	46,344,793
	前払費用	132,719,308
	未収収益	166,384,009
	未収金	1,088,582,406
	賞与引当金見返（注）	277,992,646
	その他の流動資産	56,576,497
	流動資産合計	53,945,366,262
Ⅱ 固定資産	1 有形固定資産	
	建物	13,858,971,999
	減価償却累計額	△ 7,734,908,530
	構築物	312,740,798
	減価償却累計額	△ 309,503,532
	機械装置	56,678,236
	減価償却累計額	△ 40,983,523
	車両運搬具	117,981,595
	減価償却累計額	△ 93,030,611
	工具器具備品	1,928,177,656
	減価償却累計額	△ 1,386,198,587
	美術品	553,097,821
	減価償却累計額	△ 55,026,489
	土地	20,407,000
	建設仮勘定	5,220,414
	有形固定資産合計	7,233,624,247
	2 無形固定資産	
	ソフトウェア	655,796,075
	電話加入権	428,000
	ソフトウェア仮勘定	64,502,900
	無形固定資産合計	720,726,975
	3 投資その他の資産	
	投資有価証券	60,870,140,203
	長期預金	1,700,000,000
	敷金保証金	433,911,184
	退職給付引当金見返（注）	2,195,820,574
	前払年金費用	278,729,226
	投資その他の資産合計	65,478,601,187
	固定資産合計	73,432,952,409
	資産合計	
Ⅰ 流動負債	負債の部	
	運営費交付金債務（注）	2,204,373,255
	預り補助金等（注）	3,402,656,376
	預り寄附金（注）	221,528,635
	未払金	1,124,517,654
	前受金	20,868,285
	預り金	29,104,704
	前受収益	7,263,372
	リース債務	18,093,969
	引当金	
	賞与引当金	318,496,974
	流動負債合計	7,346,903,224
Ⅱ 固定負債	資産見返負債（注）	
	資産見返運営費交付金	1,832,054,313
	資産見返寄附金	2,239,523
	建設仮勘定見返運営費交付金	5,220,414
	ソフトウェア仮勘定見返運営費交付金	64,502,900
	長期預り補助金等（注）	36,584,938,000
	長期リース債務	2,286,252
	引当金	
	退職給付引当金	2,474,549,800
	資産除去債務	93,595,861
	固定負債合計	41,059,387,063
	負債合計	
Ⅰ 資本金	純資産の部	
	政府出資金	77,654,185,177
資本金合計		77,654,185,177
Ⅱ 資本剰余金	資本剰余金	559,568,370
	その他行政コスト累計額（注）	△ 8,347,412,272
	減価償却相当累計額（△）	△ 7,404,944,950
	減損損失相当累計額（△）	△ 126,000
	利息費用相当累計額（△）	△ 7,687,202
	除売却差額相当累計額（△）	△ 934,654,120
	民間出えん金（注）	909,052,787
	資本剰余金合計	△ 6,878,791,115
Ⅲ 利益剰余金	前中期目標期間繰越積立金（注）	1,821,245,294
	積立金	2,262,684,977
	当期末処分利益	4,088,912,227
	（うち当期総利益）	4,088,912,227
	利益剰余金合計	8,172,842,498
Ⅳ 評価・換算差額等	繰延ヘッジ損益	23,791,824
	評価・換算差額等合計	23,791,824
	純資産合計	78,972,028,384
負債純資産合計		127,378,318,671

(注) これらは、独立行政法人固有の会計処理に伴う勘定科目である。

財務諸表

損益計算書

(2023年4月1日～2024年3月31日)

(単位：円)

經常費用		
文化芸術交流事業費	1,781,767,913	
海外日本語事業費	7,398,653,939	
海外日本研究・国際対話事業費	1,822,855,386	
調査研究・情報提供等事業費	590,849,617	
在外事業費	4,600,631,035	
文化交流施設等協力事業費	404,111,541	
一般管理費	1,464,132,936	
財務費用	1,405,047	
經常費用合計		18,064,407,414
經常収益		
運営費交付金収益（注）	13,178,386,245	
運用収益	833,908,930	
受託収入	68,399,937	
補助金等収益（注）	764,282,594	
施設費収益（注）	7,471,041	
寄附金収益（注）		
寄附金収益	15,553,028	
特定寄附金収益	393,842,307	409,395,335
資産見返戻入（注）		
資産見返運営費交付金戻入	401,838,231	
資産見返補助金等戻入	654,731	
資産見返寄附金戻入	828,422	403,321,384
賞与引当金見返に係る収益（注）		265,940,412
財務収益		
受取利息	104,216	104,216
雑益		
日本語能力試験受験料等収益	2,281,560,404	
為替差益	3,103,238,664	
その他の雑益	824,674,620	6,209,473,688
經常収益合計		22,140,683,782
經常利益		4,076,276,368
臨時損失		
固定資産除却損	22,280,629	
減損損失	13,551,365	35,831,994
臨時利益		
資産見返運営費交付金戻入（注）	17,925,426	
固定資産売却益	255,749	18,181,175
当期純利益		4,058,625,549
前中期目標期間繰越積立金取崩額（注）		30,286,678
当期総利益		4,088,912,227

(注) これらは、独立行政法人固有の会計処理に伴う勘定科目である。

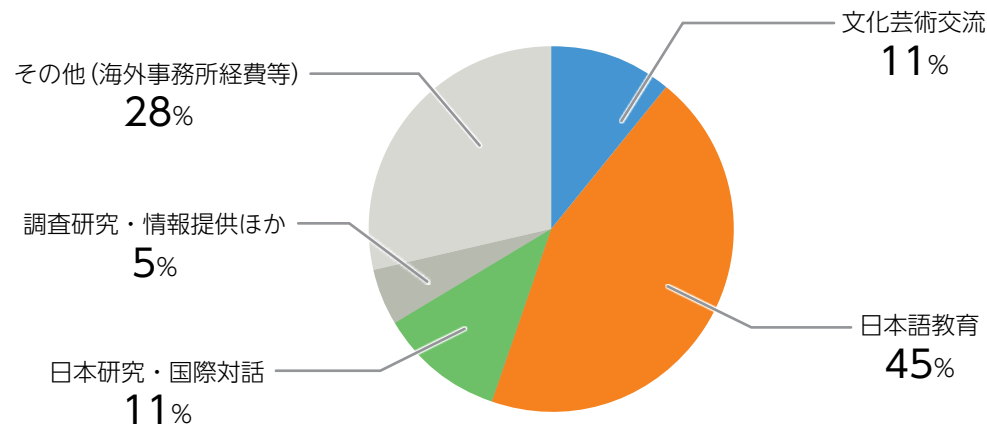
利益の処分に関する書類

(2024年7月12日)

(単位：円)

I 当期末処分利益	4,088,912,227
当期総利益	4,088,912,227
II 利益処分額	
積立金	4,088,912,227
	4,088,912,227

2023 年度事業分野別支出構成比



諮問委員会等

(2023 年度)

以下の方々に、委員としてご協力いただいています。

(50音・アルファベット順、敬称略)

諮問委員会等

※ 2024 年 3 月 31 日現在

日本研究米国諮問委員会 (American Advisory Committee for Japanese Studies)	
● Nobuko Adachi (イリノイ州立大学教授)	● Levi McLaughlin (ノースカロライナ州立大学准教授)
● Lee Branstetter (カーネギーメロン大学教授)	● Karen Nakamura (カリフォルニア大学バークレー校教授)
● Julie Nelson Davis (ペンシルバニア大学教授)	● Robert J. Pekkanen (ワシントン大学教授)
● Alisa Freedman (オレゴン大学教授)	● Morgan Pitelka (ノースカロライナ大学チャペルヒル校教授)
● Andrew Gordon (ハーバード大学教授)	● Doug Slaymaker (ケンタッキー大学教授)
● Eiko Ikegami (ニュースクール大学教授)	● Kären Wigen (スタンフォード大学教授)
● Kaoru Iokibe (東京大学教授)	● Satomi Yamamoto (早稲田大学教授)
● Saori Katada (南カリフォルニア大学教授)	

パリ日本文化会館運営審議会

【フランス側委員】

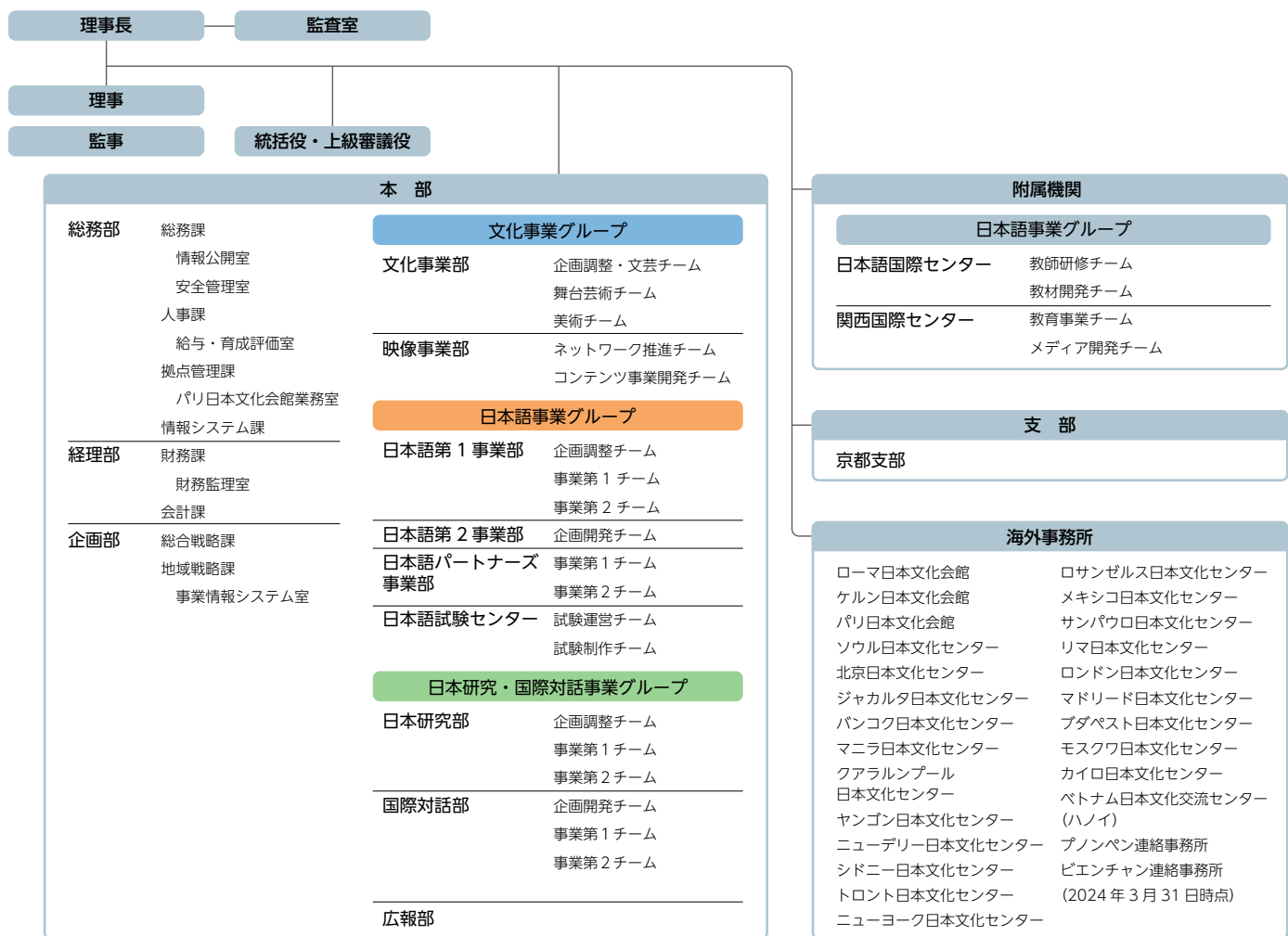
- Louis Schweitzer（日仏パートナーシップ欧州・外務大臣特別代表）
【フランス側共同座長】
- Hortense Archambault（セヌ・サン・ドニ県文化会館館長）
- Jacques Aschenbroich（オランジュ社取締役会長）
- Estelle Brachlianoff（ヴェオリア社最高執行責任者）
- Anne Démians（建築家、都市計画家）
- Philippe Faure（元駐日フランス大使）
- Michael Lucken（国立東洋言語文化学院教授）
- Jean-Robert Pitte（フランス地理学会会長）
- Christian Sautter（社会科学高等研究院日仏財団副理事長）
- Diane de Selliers（ディアヌ・ド・セリエ出版）

【日本側委員】

- 松浦 晃一郎（第8代ユネスコ事務局長）【日本側共同座長】
- 石井 リーサ 明理（照明デザイナー／I.C.O.N. 代表）
- 柏倉 康夫（放送大学名誉教授）
- 辻原 登（作家／神奈川近代文学館館長）
- 早間 玲子（建築家）
- 堀場 厚（株式会社堀場製作所代表取締役会長兼グループ CEO）

組織図

(2024年3月31日現在)



ウェブサイト・ソーシャルメディアのご案内

ウェブサイト

国際交流基金ウェブサイト



<https://www.jpf.go.jp/>

JF の事業、イベント等の最新情報、公募プログラムの募集情報、便利な日本語教材、過去に行った調査報告、海外事務所のウェブサイトへのリンク等、さまざまな情報を発信しています。

オンライン・コンテンツ（動画、読み物等）

オンラインで楽しめる公演や展示、講演会・セミナー等の動画や、文化交流の最前線に立つ人々のインタビューや寄稿等のコンテンツを提供しています。

- JF digital collection https://www.jpf.go.jp/j/project/digital_collection/index.html
- ウェブマガジン「をちこち」 <https://www.wochikochi.jp/>
- 舞台芸術ウェブサイト「PANJ（Performing Arts Network Japan）」 <https://performingarts.jpf.go.jp>
- 舞台公演オンライン配信プロジェクト「STAGE BEYOND BORDERS」 <https://stagebb.jpf.go.jp/>
- 芸術・文化紹介映像配信ポータルサイト「Doors to Arts of Japan」 <https://www.daj.jpf.go.jp/>
- ヴェネチア・ビエンナーレ日本館公式サイト <https://venezia-biennale-japan.jpf.go.jp/j/>
- 日本映画発信ウェブサイト「JFF Theater」 <https://www.jff.jpf.go.jp/ja/>
- ミニシアター特集配信企画「JFF+ INDEPENDENT CINEMA」 <https://jff.jpf.go.jp/watch/independent-cinema/>
- ミニシアター特集配信企画「JFF+ INDEPENDENT CINEMA 2023」 <https://jff.jpf.go.jp/watch/ic2023/jp/>
- 日中 21 世紀交流事業（心連心ウェブサイト） <https://xinlianxin.jpf.go.jp/>
- 日本語教育オンライン事業 <https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/online/>
- 日米草の根交流コーディネーター派遣（JOI）プログラム <https://www.jpf.go.jp/j/project/intel/exchange/joi/index.html>

日本語教育関係の情報

【試験】

日本語学習者の日本語能力評価のための試験に関する情報を提供しています。

- 日本語の試験を受ける <https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/test/>

【日本語教師支援】

日本語教師の育成、日本語教材情報、授業のアイデア、海外の日本語教育の現場の声等の情報を提供しています。

- 日本語を教える <https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/teach/index.html>

【日本語学習者支援】

日本語学習の教材や、オンラインで学べる e ラーニングサイト、映像・ウェブ教材等を提供しています。

- 日本語を学ぶ <https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/education/index.html>

【日本語教育事情】

全世界を対象とする「海外日本語教育機関調査」の報告書や、各国の日本語教育事情等の情報を提供しています。

- 日本語教育について調べる <https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/index.html>

【日本語パートナーズ派遣事業】

アジアの中学・高校等で日本語を教える教師やその生徒のパートナーとして、授業のアシスタントや、日本文化の紹介をする人を派遣しています。

- 日本語パートナーズ <https://asiawa.jpf.go.jp/partners/>

資料／リソース／データベース

【翻訳・出版】

外国語に翻訳されている日本の文学作品や、翻訳出版にお薦めの図書に関する情報を提供しています。

- 日本文学翻訳作品データベース <https://jltrans-opac.jpf.go.jp/>
- 翻訳推薦著作リスト“Worth Sharing” <https://www.worthsharing.jpf.go.jp/>
- 翻訳推薦著作リスト“Lifelong Favorites”（児童書版） <https://www.worthsharing.jpf.go.jp/lifelong-favorites/>

【映画】

約 6800 本以上の日本映画の情報を、日本語・英語で発信しています。

- 日本映画データベース（JFDB） <https://jfdb.jp/>

ソーシャルメディア

JF の事業のさまざまな情報を発信しています。ぜひフォローをお願いします。



- YouTube チャンネル
<https://www.youtube.com/@thejapanfoundation>



- Facebook アカウント
<https://www.facebook.com/TheJapanfoundation>



- X アカウント
<https://x.com/japanfoundation/>



- Instagram アカウント
<https://www.instagram.com/japanfoundation/>

各事業や附属機関・支部、海外事務所も、事業の特性や地域のニーズに合わせた独自の発信を行っています。それぞれのアカウントについては、下記の QR コードよりアクセスください。



https://www.jpf.go.jp/j/policy/official_accounts.html